

6 病害虫関係資料

(1) 令和5年度発表の病害虫発生予察注意報等

ア 注意報 (第1号、第2号、第3号、第4号、第5号)



コバトン



令和5年度病害虫発生予察注意報第1号

令和5年7月11日

埼玉県病害虫防除所

県内のオオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数が、4月以降現在まで平年を上回っています。また、調査を行っている4地点のうち3地点では、発生量が多かった昨年度をさらに上回る誘殺数となっています。これまでにナス、スイートコーン、ダイズで幼虫による食害が確認されています。

本虫は野菜、花きを中心として50種類近い作物を加害しますが、本県で被害が懸念される作物は、ダイズ、トマト、ナス、ブロッコリー、レタス、スイートコーン、イチゴ、キク、ガーベラ、宿根アスターなどです。

幼虫は卵からふ化すると直ちに植物の内部へ食入するため、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 野菜類、花き類

病害虫名 オオタバコガ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病害虫防除所が設置したオオタバコガのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、4か所すべて(本庄市、深谷市、越谷市、杉戸町)で平年より多い傾向が続いており、深谷市、越谷市、杉戸町の3地点では注意報を出した昨年を上回る増加傾向が見られる(図1)。
- (2) 7月6日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 露地ナスほ場で幼虫の食害が確認されており、今後、被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 新しい食害痕や虫糞を見つけたら、その周辺に幼虫がいる可能性が高いため、発見しだい捕殺する。
- (2) 摘芯した腋芽や花蕾などには卵が産みつけられていたり、若齢幼虫が潜んでいたりすることがあるため、株元などに放置せず、ほ場外で処分する。
- (3) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等(5mm目程度の防虫ネット)を張って、成虫の侵入を防ぐ。

- (4) 幼虫が植物体内に食入してしまうと薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (5) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける。(表1、表2、表3)

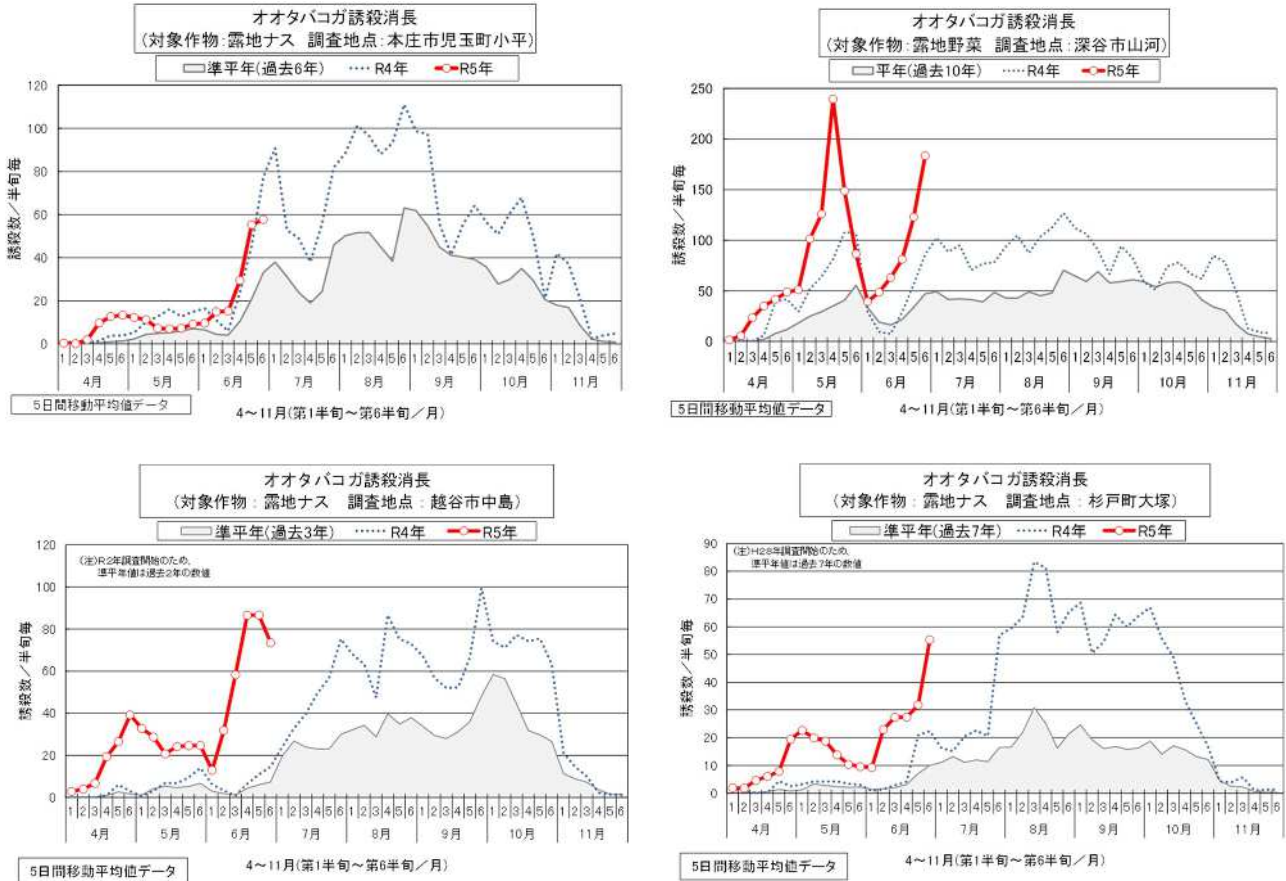


図1 オオタバコガ誘殺消長 (左上から本庄市、深谷市、越谷市、杉戸町)



写真1 オオタバコガ幼虫による葉の食害



写真2 オオタバコガ幼虫による果実の侵入痕

表1 ナスのオオタバコガの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
スピノエース顆粒水和剤	5	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫前日まで	2回以内
カスケード乳剤	1 5	収穫前日まで	4回以内
カウンター乳剤	1 5	収穫前日まで	4回以内
トルネードエースDF	2 2 A	収穫前日まで	2回以内
アクセルフロアブル	2 2 B	収穫前日まで	3回以内
フェニックス顆粒水和剤	2 8	収穫前日まで	3回以内
プレバソフロアブル5	2 8	収穫前日まで	2回以内
グレースシア乳剤	3 0	収穫前日まで	2回以内
プレオフロアブル	UN	収穫前日まで	4回以内

(使用基準は令和5年6月30日現在)

表2 トマトのオオタバコガの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アニキ乳剤	6	収穫前日まで	3回以内
マッチ乳剤	1 5	収穫前日まで	4回以内
ベネビアOD	2 8	収穫前日まで	4回以内*

※定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内

(使用基準は令和5年6月30日現在)

表3 スイートコーンのオオタバコガの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
ゼンターリ顆粒水和剤	1 1 (A)	収穫前日まで	—
コテツフロアブル	1 3	収穫前日まで	3回以内
プレバソフロアブル5	2 8	収穫前日まで	3回以内

(使用基準は令和5年6月30日現在)

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintouroku.jouhou.html>

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ (令和5年5月1日～8月31日)

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661



令和5年度病虫害発生予察注意報第2号

令和5年7月31日
埼玉県病虫害防除所

県内各地で実施しているイネ斑点米カメムシ類の畦畔・雑草地における発生調査の結果、1調査地点当たりの発生量が60.5頭と平年(20.5頭)の約3倍で、過去10年で最も多くなっています。

また、5月下旬以降の移植地域の水田内のすくい取り調査でも、斑点米カメムシ類の捕獲数が平年より多く、イネの斑点米の発生が懸念されますので、出穂期から乳熟期にかけての防除と定期的な除草を行ってください。

なお、出穂前2週間と出穂後2週間の、生息地(畦畔、雑草地、休耕田など)の除草は、カメムシ類を水田に追い込み、斑点米の発生を助長させるので避けましょう。

作物名 イネ

病虫害名 斑点米カメムシ類

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病虫害防除所で7月中旬を基準に毎年実施しているイネ斑点米カメムシ類畦畔・雑草地発生調査の結果、1調査地点当たりの発生量が60.5頭と平年(20.5頭)の約3倍で、過去10年で最も多くなっている(図1)。
- (2) 7月中旬に実施した水田内のすくい取り調査においても、5月下旬以降の移植地域では、6調査地点のうち4地点で捕獲され、うち2地点が11頭以上の多発生となり、発生量は平年に比べてかなり多い。
- (3) 7月27日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されており、今後も斑点米カメムシ類の発生に好適な条件が継続し、多発生が予測される。
- (4) 県東部地域でイネカメムシ(写真1)のイネへの寄生が確認されているほか、県北部地域では畦畔雑草からミナミアオカメムシ(写真2)が捕獲されており、これら大型種に加害された場合は大きな被害につながる懸念がある。

3 防除対策等

- (1) 本県の水田畦畔等で捕獲される斑点米カメムシ類は、イネホソミドリカスミカメ(写真3、別和名:アカヒゲホソミドリカスミカメ)とアカスジカスミカメ

(写真4)で約9割を占める(図2)。両種は、成虫の移動能力が高いため、広域的な一斉防除が必要である。

- (2) 近年、県東部地域でイネカメムシ、県北部地域でミナミアオカメムシの水田内での発生が増加傾向にあり、寄生頭数が少ない場合でも大きな被害につながる可能性があるため、これらの大型種を本圃で確認した場合は、必ず薬剤による防除を実施する。
- (3) 生息場所の水田畦畔や休耕田等の雑草管理(除草)を丁寧に行う。ただし、斑点米カメムシ類を水田へ追い込み被害が拡大する恐れがあるので、出穂前2週間と出穂後2週間は除草を行わない。
- (4) 周辺より出穂の早い水田、あるいは周辺より出穂の遅い水田は、被害が集中しやすいので防除を徹底する。
- (5) 農薬による蜜蜂への影響を軽減させるために、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯(午前8時~12時まで)を避け、可能な限り早朝又は夕刻に行うなどの対策を講じる。

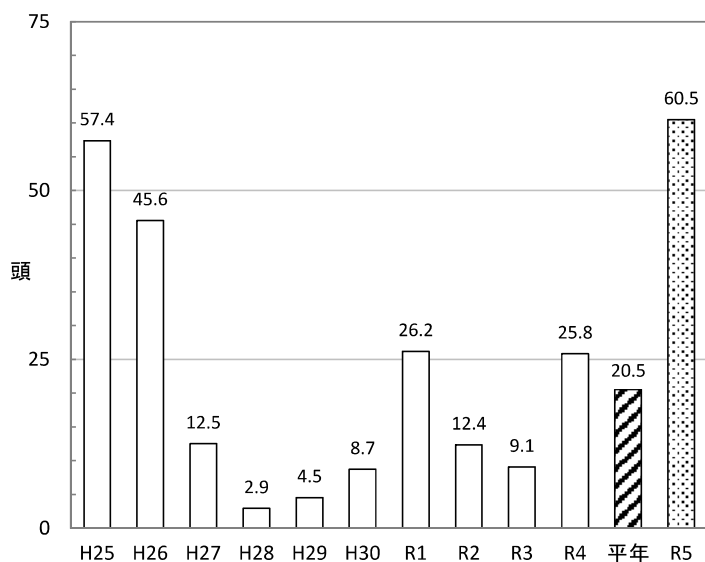


図1 イネ斑点米カメムシ類畦畔・雑草地発生調査結果(1調査地点当たりの発生量)

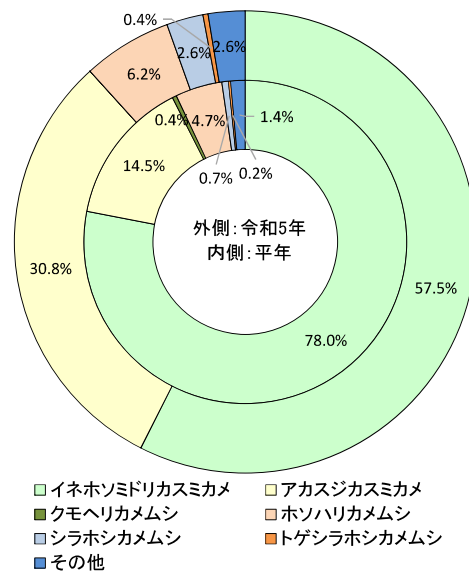


図2 イネ斑点米カメムシ類畦畔・雑草地発生調査の種構成



写真1 イネカメムシ成虫(体長約 12mm)



写真2 ミナミアオカメムシ成虫(体長約 14mm)



写真3 イネホソミドリカスミカメ成虫(体長約 6mm)



写真4 アカスジカスミカメ成虫(体長約 5mm)

表 稲のカメムシ類の防除薬剤例(地上防除・無人航空機防除両対応)

薬 剤 名	IRAC コード	使用時期	使用回数
キラップフロアブル	2B	収穫 14 日前まで	2 回以内
ダントツフロアブル	4A	収穫 7 日前まで	3 回以内
エクシードフロアブル	4C	収穫 7 日前まで	3 回以内
エミリアフロアブル	4F	収穫 7 日前まで	2 回以内
スタークル 1 キロH粒剤	4A	収穫 7 日前まで	3 回以内

(使用基準は令和 5 年 7 月 2 5 日現在)

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム(農林水産省)から検索できます。
農薬登録情報提供システム(農林水産省) <http://pesticide.maff.go.jp/>

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ (令和 5 年 5 月 1 日～ 8 月 3 1 日)

4 問合せ先

埼玉県病虫害防除所 電話：048-539-0661



コバトン



令和5年度病害虫発生予察注意報第3号

令和5年8月15日
埼玉県病害虫防除所

県内のオオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数が平年を上回っており、令和5年7月11日に注意報第1号を発表しましたが、その後も全地点で誘殺数が平年比2～7倍と多い状態が続いています。8月上旬のナスほ場における発生程度は平年比で「多」と被害が拡がっており、これから栽培が始まる作物への被害も懸念されます。

本虫は野菜、花きを中心として50種類近い作物を加害しますが、本県で被害が懸念される作物は、ダイズ、トマト、ナス、ブロッコリー、レタス、スイートコーン、イチゴ、キク、ガーベラ、宿根アスターなどです。

幼虫は卵からふ化すると直ちに植物の内部へ食入するため、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 野菜類、花き類、ダイズ
病害虫名 オオタバコガ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病害虫防除所が設置したオオタバコガのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、4地点（本庄市、深谷市、越谷市、杉戸町）いずれも平年を上回って推移しており、本庄市以外の3地点では注意報を発表した今年の2～3倍に達している（図1）。
- (2) 8月10日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。
- (3) 露地ナスほ場において、幼虫の食害が平年より多く確認されており、他作物でも今後の被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 新しい食害痕や虫糞を見つけたら、その周辺に幼虫がいる可能性が高いため、発見しだい捕殺する。
- (2) 摘芯した腋芽や花蕾などには卵が産みつけられていたり、若齢幼虫が潜んでいたりすることがあるため、株元などに放置せず、ほ場外で処分する。

- (3) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等（5mm目程度の防虫ネット）を張って、成虫の侵入を防ぐ。
- (4) 幼虫が作物内に食入すると薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (5) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける（表1、表2、表3）。

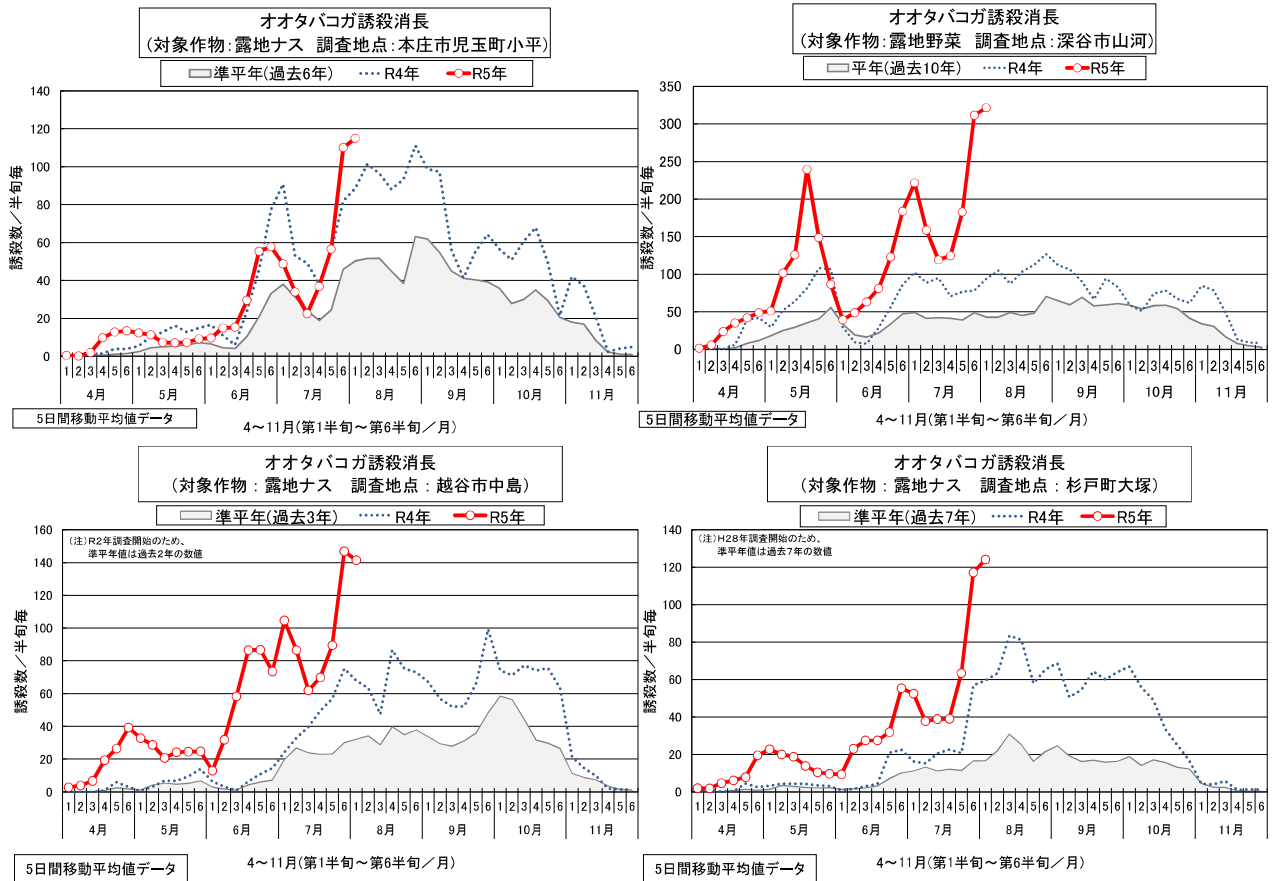


図1 オオタバコガ誘殺消長（左上から本庄市、深谷市、越谷市、杉戸町）



写真1 ナス果実に食入するオオタバコガ若齢幼虫



写真2 食害したナス果実内で蛹化したオオタバコガ

表1 ナスにおけるオオタバコガの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
スピノエース顆粒水和剤	5	収穫前日まで	2回以内
アニキ乳剤	6	収穫前日まで	2回以内
コテツフロアブル	1 3	収穫前日まで	4回以内
カスケード乳剤	1 5	収穫前日まで	4回以内
トルネードエースDF	2 2 A	収穫前日まで	2回以内
アクセルフロアブル	2 2 B	収穫前日まで	3回以内
フェニックス顆粒水和剤	2 8	収穫前日まで	3回以内
プレオフロアブル	UN	収穫前日まで	4回以内

(使用基準は令和5年8月9日現在)

表2 ブロッコリーにおけるオオタバコガの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫3日前まで	3回以内
ゼンターリ顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し、収穫前日まで	—
グレーシア乳剤	3 0	収穫7日前まで	2回以内

(使用基準は令和5年8月9日現在)

表3 ダイズにおけるオオタバコガの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
デルフィン顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し、収穫前日まで	—
アタブロン乳剤	1 5	収穫14日前まで	2回以内
プレバソンフロアブル5	2 8	収穫7日前まで	2回以内

(使用基準は令和5年8月9日現在)

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html>

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ (令和5年5月1日～8月31日)

4 問合せ先

埼玉県病虫害防除所 電話：048-539-0661



令和5年度病害虫発生予察注意報第4号

令和5年8月15日
埼玉県病害虫防除所

県内のシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年の2～8倍に達しています。特に7月第6半旬以降に急増し、ネギほ場では卵塊や幼虫の食害が確認されています。

本虫は野菜、花きを中心として60種類以上の作物を加害するため、今後ブロッコリー等への被害も懸念されます。

ネギでは、ふ化幼虫が集団で葉の先端や折れた部分から葉身内へ食入してしまうと、薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 ネギ、ブロッコリー
病害虫名 シロイチモジヨトウ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病害虫防除所が設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、3地点（深谷市、越谷市、杉戸町）いずれも平年を上回って推移しており、注意報を発表した昨年度と同様か、地点によっては7月第6半旬以降に昨年度の2～4倍に達している（図1）。
- (2) 8月10日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。
- (3) ネギほ場において、幼虫の食害が平年よりやや多く確認されており、今後、ブロッコリー等の他作物でも被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 早期発見に努め、卵塊やふ化直後の1～2齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- (2) 幼虫が作物内に食入すると薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (3) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける（表1、表2）。

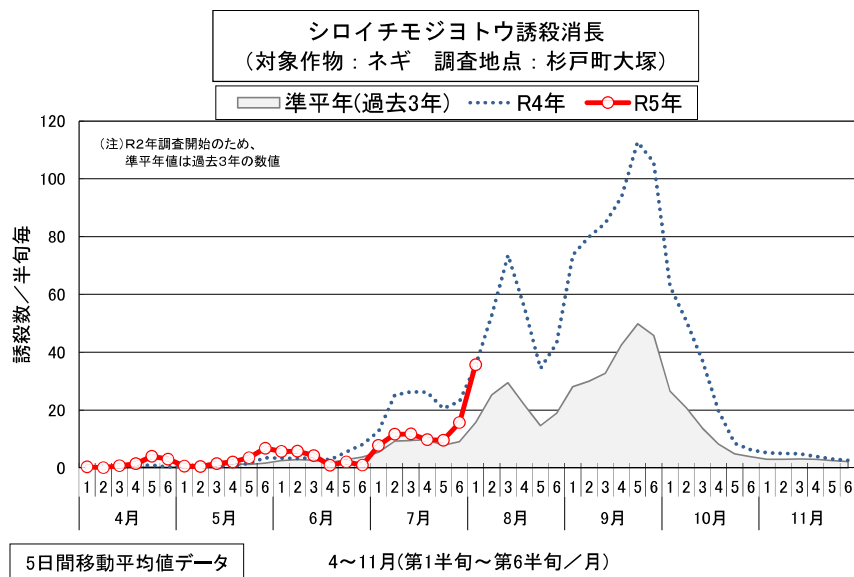
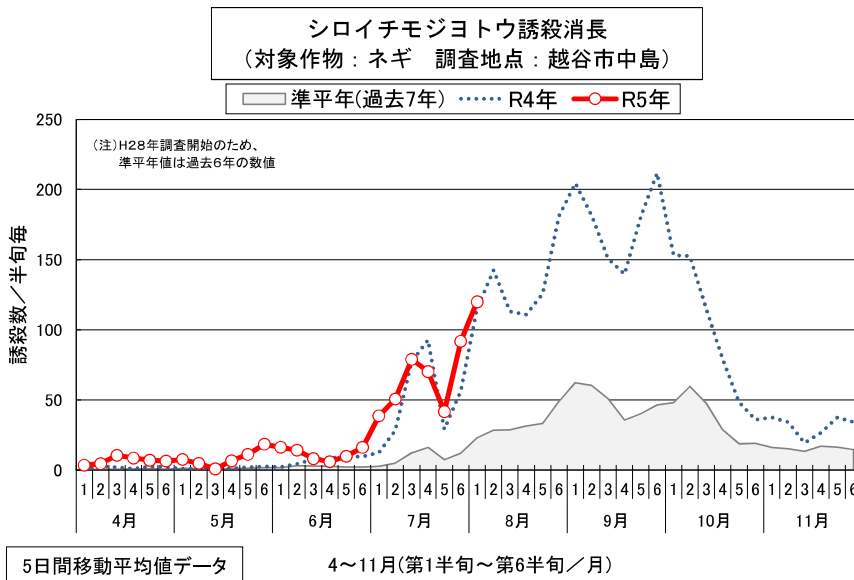
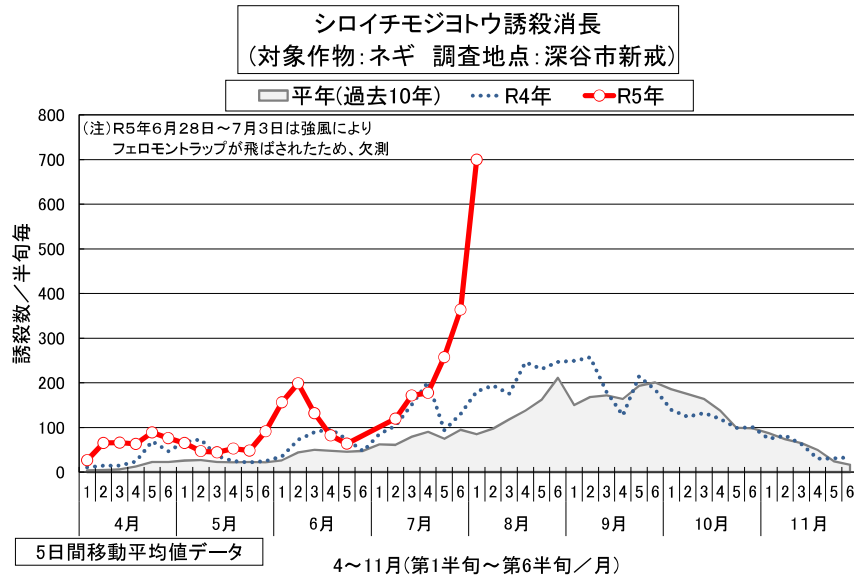


図1 シロイチモジヨトウ誘殺消長 (上から深谷市、越谷市、杉戸町)

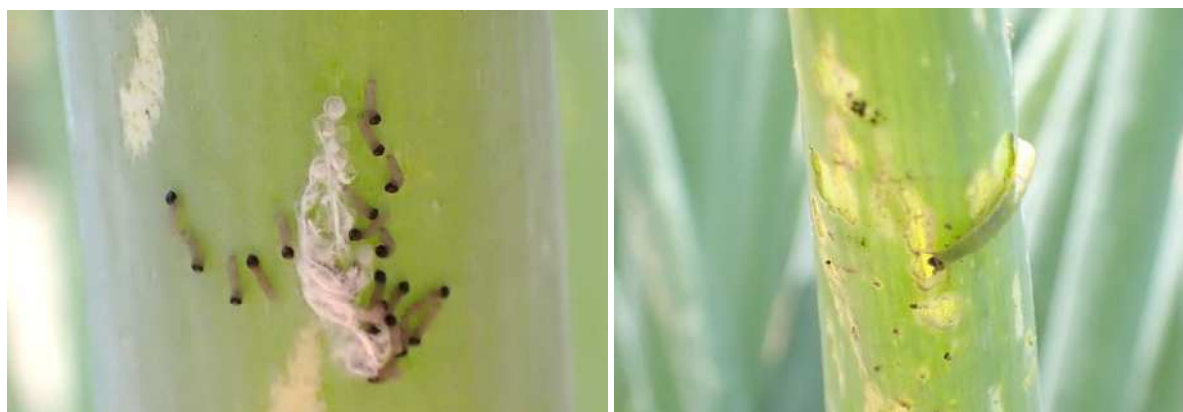


写真1 ふ化直後のシロイチモジヨトウ若齢幼虫（ネギ葉）

写真2 ネギを食害するシロイチモジヨトウ中齢幼虫

表1 ネギのシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	IRAC コード	使用時期	使用 回数
アディオソ乳剤	3 A	収穫7日前まで	3回以内
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内
アニキ乳剤	6	収穫3日前まで	3回以内
マッチ乳剤	1 5	収穫7日前まで	3回以内
ロムダンフロアブル	1 8	収穫7日前まで	3回以内
トルネードエースDF	2 2 A	収穫14日前まで	2回以内
ミネクトデュオ粒剤	4 A、2 8	収穫3日前まで	3回以内

（使用基準は令和5年8月9日現在）

表2 ブロッコリーにおけるシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	IRAC コード	使用時期	使用 回数
アフームエクセラ顆粒水和剤	6、1 5	収穫7日前まで	3回以内
ジャックポット顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し、収穫前日まで	—
ベネビアOD	2 8	収穫前日まで	3回以内

（使用基準は令和5年8月9日現在）

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html>

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！（令和5年5月1日～8月31日）

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661



コバトン



令和5年度病害虫発生予察注意報第5号

令和5年9月25日
埼玉県病害虫防除所

県内のシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年を上回っており、本年8月15日に注意報第4号を発表しましたが、その後も依然として多い状況が継続しています。9月中旬のネギほ場における発生程度は平年比で「多」となっております。本年はダイズほ場においても葉の食害及び幼虫が多数確認されています。

本虫は野菜、花きを中心として60種類以上の作物を加害します。

老齢幼虫では、薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 ネギ、ブロッコリー、ダイズ
病害虫名 シロイチモジヨトウ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 注意報第4号の発表後も、フェロモントラップへの雄成虫誘殺数が平年を上回って推移している。(図:次項)
- (2) 9月21日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 従来目立った加害を受けていなかったダイズほ場において、葉の食害及び幼虫が多数確認されている。
- (4) 9月中旬のネギほ場(5地域)の調査結果では平均すると60.4%の株で幼虫が認められ、昨年(34.4%)を大きく上回っている。また、ブロッコリー等の他作物でも、定植間もないほ場で食害を受けると今後の生育に大きく影響することが懸念される。

3 防除対策等

- (1) 早期発見に努め、卵塊やふ化直後の1~2齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。

- (2) 幼虫が作物内に食入すると薬剤の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (3) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける（表1～3）。

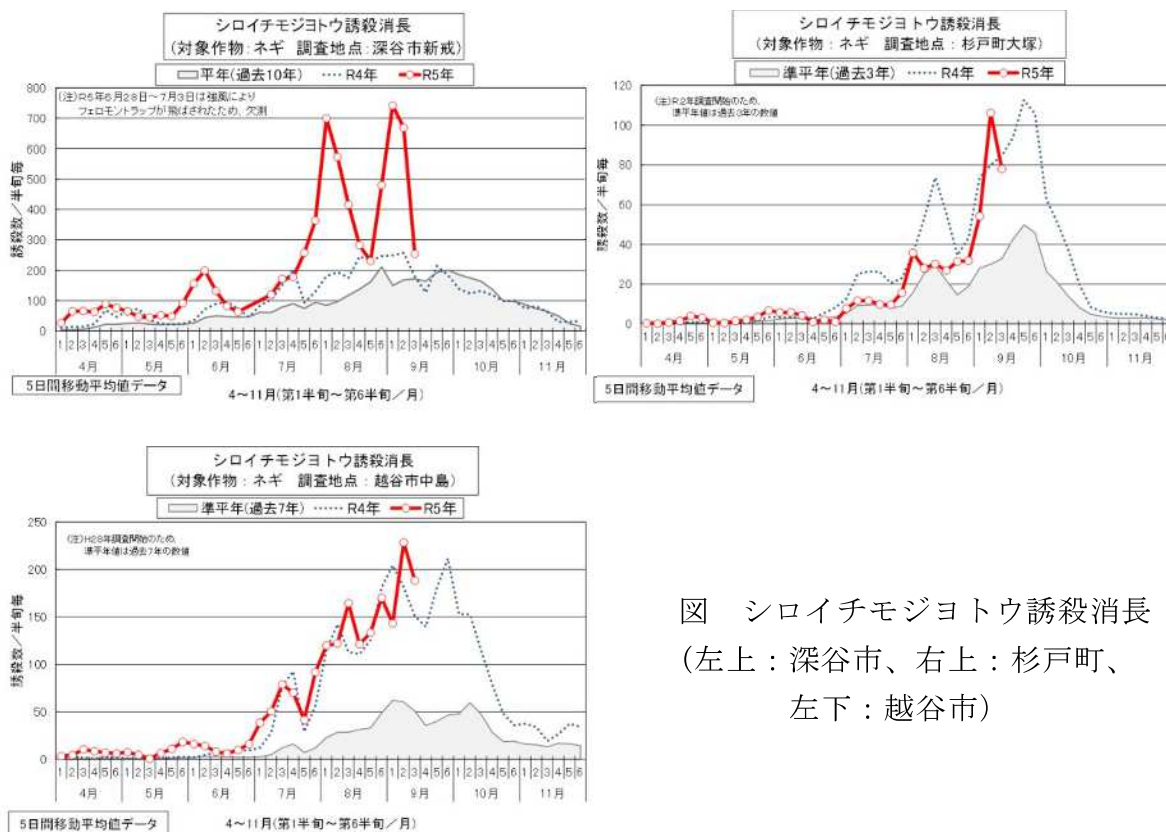


図 シロイチモジヨトウ誘殺消長
 (左上：深谷市、右上：杉戸町、
 左下：越谷市)



写真1 ブロccoli葉を食害する
シロイチモジヨトウ老齢幼虫



写真2 ダイズ葉を食害する
シロイチモジヨトウ老齢幼虫

表1 ネギのシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アディオソ乳剤	3 A	収穫7日前まで	3回以内
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内
アニキ乳剤	6	収穫3日前まで	3回以内
マッチ乳剤	1 5	収穫7日前まで	3回以内
ロムダンフロアブル	1 8	収穫7日前まで	3回以内
トルネードエースDF	2 2 A	収穫14日前まで	2回以内
ミネクトデュオ粒剤	4 A、2 8	収穫3日前まで	3回以内

(使用基準は令和5年9月19日現在)

表2 ブロッコリーにおけるシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アフームエクセラ顆粒水和剤	6、1 5	収穫7日前まで	3回以内
ジャックポット顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し、収穫前日まで	—
ベネビアOD	2 8	収穫前日まで	3回以内
グレーシア乳剤	3 0	収穫7日前まで	2回以内

(使用基準は令和5年9月19日現在)

表3 ダイズにおけるシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
プレオフロアブル	UN	収穫7日前まで	2回以内
デルフィン顆粒水和剤	1 1 A	発生初期 但し、収穫前日まで	—

(使用基準は令和5年9月19日現在)

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintouroku.jouhou.html>

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661



コバトン

病虫害防除情報



令和5年5月15日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 ナスのオオタバコガについて

2 情報内容

県内のオオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数が、全調査地点で平年より多い状態が続いています。5月第1半旬時点で、全地点の平均誘殺数は平年の約6倍となり、多いところでは平年の約30倍となりました。

本虫は野菜、花きを中心として50種類近い作物を加害します。幼虫は卵からふ化すると直ちに、植物の内部へ食入するため、商品価値がなくなります。

向こう1か月の気象予報では、気温が平年並か高い見込みであることから、今後本虫の活動がさらに活発になると予想されます。

被害が拡大する前に、対策のポイントを参考に、状況に応じた防除を実施しましょう。

（1）生態と被害

幼虫は卵からふ化すると直ちに、植物の内部へ食入します。ナスなど果菜類では果実に潜り込み、内部を加害するため、農作物としては経済的に大きな被害となります。本県では主に9～10月に食害が発生しますが、オオタバコガは1年で3～6回発生し、世代を増すごとにその発生量も増加するため、発生初期における防除が極めて重要です。

（2）気象要因

4月の平均気温は平年よりかなり高く（+1.9℃、熊谷）、5月11日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は、平年並か平年より高い確率が各40%、降水量はほぼ平年並の見込みです。



写真1 オオタバコガの老齢幼虫



写真2 オオタバコガ幼虫によるナス果実の食害

（参考）最新の誘殺数の推移は「フェロモントラップ等調査データ」（埼玉県 HP）を参照ください。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

(3) 対策のポイント

- ア 新しい食害痕や虫糞を見つけたら、その周辺に幼虫がいる可能性が高いため注意深く観察し、見つけ次第捕殺します。
- イ 摘芯した脇芽などには卵や若齢幼虫が見られるので、株元などに放置せず、ほ場外で処分します。
- ウ 幼虫が作物内に食入してしまうと薬剤散布の効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を行ってください。
- エ 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施しましょう。
- オ 施設栽培では、開口部に寒冷紗等（5mm目程度の防虫ネット）を張って、成虫の侵入を防ぎましょう。

表 ナスにおけるオオタバコガの防除薬剤例（使用基準は令和5年5月11日現在）

薬剤名	IRACコード	使用時期	使用回数
ヨーバルフロアブル	28	灌注：育苗期後半～定植当日 散布：収穫前日まで	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
スピノエース顆粒水和剤	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫前日まで	2回以内
マッチ乳剤	15	収穫前日まで	4回以内
プレオフロアブル	UN	収穫前日まで	4回以内
エスマルク DF [※]	11(A)	発生初期但し、収穫前日まで	—

※作物名「野菜類」として登録

3 IRACコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

◎農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab/m/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中（令和5年5月1日～8月31日）

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661



コバトン

病虫害防除情報



令和5年5月26日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 稲（早期栽培）のニカメイガ（ニカメイチュウ）について

2 情報内容

(1) 稲のニカメイガ（ニカメイチュウ）

ニカメイガは1960年代まではヒメトビウンカと並ぶイネの重要な病虫害でしたが、徐々に発生量が減り、本県では40年以上大きな被害は発生していません。

これまで、県内の発生予察灯での誘殺数は周期的な増減はあるものの、全体的に減少傾向でしたが、ここ数年は増加傾向にあり、早期栽培地域を中心に被害が散見されるようになってきました。本年は、予察灯への誘殺が平年より早く、誘殺数もやや多くなっています。



ニカメイガ中齢幼虫(体長約10 mm)



ニカメイガ成虫(体長約13 mm)

(2) 被害の様子

本虫が加害するのは幼虫期のみです。第一世代幼虫は初期被害として、株元の葉鞘の変色（褐変）症状が発生します。この初期の葉鞘の変色は1株あるいは数株に集中して発生することが多く、褐変した部分から葉が折れ、水に流れたようになる流れ葉症状が見られます。その後、幼虫が茎の内部に食入することで被害が進み、心枯れ症状となって現れます。さらに、第二世代の幼虫は稲の出穂後に食害することで白変穂として現れ、被害株は不稔となります。

参照：「農業総覧 病虫害診断防除編」 農山漁村文化協会（1997）



第一世代幼虫による稲の葉鞘の褐変



ニカメイガ幼虫による葉鞘変色茎



第一世代幼虫による稲の心枯れ症状



第二世代幼虫による白変穂(写真中央)

(3) フェロモントラップ発生調査結果

当所で実施している水稲ほ場の病虫害発生状況調査では、令和2年まではほとんど本虫の被害が見られませんでした。令和3年から早期栽培地域の水稲ほ場を中心に、心枯れ症状・白変穂などの被害が確認されるようになってきました。

このため、14年ぶりに、本年からフェロモントラップによる本虫の発生量調査を再開したところ、幸手市神扇で5月23日までの越冬世代成虫誘殺数が424頭、加須市麦倉で5月21日までの誘殺数が165頭と、早期栽培地域での誘殺数が多くなっています。いずれの調査地点も5月の第1半旬が越冬世代成虫の発生ピークとなっており、越冬世代成虫の誘殺は6月第1半旬ころまで続くと見込まれます。

本虫の要防除水準は、越冬世代成虫の1トラップ当たり誘殺数が400～500頭となっていますので、早期栽培地域では防除しないと被害が発生する懸念があります。

(4) 防除対策

本虫の防除は、箱施薬が最も省力かつ効果的です。早期栽培地域で本虫を対象とする箱施薬を実施していない場合は、速やかに本田での薬剤防除を行いましょう。

若齢幼虫のうちの薬剤防除が有効ですが、粒剤は効きははじめが遅いため、早めの散布を行い、散布後1週間は止水してください。

また、窒素多肥は本虫の成長を促進する要因となるため、適切な施肥を心がけてください。

表 ニカメイガ（ニカメイチュウ）の防除薬剤例（本田防除用薬剤）

薬 剤 名	IRAC コード※	使用時期	使用回数
トレボン粒剤	3A	収穫 21 日前まで	3 回以内
パダン 1 キロ粒剤	14	収穫 30 日前まで	6 回以内
スタークル 1 キロ H 粒剤	4A	収穫 7 日前まで	3 回以内
チューンアップ顆粒水和剤	11A	発生初期、 ただし収穫前日まで	—
ディアナ SC	5	収穫 7 日前まで	2 回以内

（使用基準は令和 5 年 5 月 26 日現在）

※ IRAC コード及び FRAC コードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及び FRAC（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中（令和 5 年 5 月 1 日～ 8 月 3 1 日）

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661



病虫害防除情報



コバトン

令和5年7月5日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）について

2 情報内容

(1) イネ縞葉枯病の病徴について

生育初期に感染すると、新葉が黄白色に退色し、こより状に巻いたまま弓状に徒長します。このような株は「ゆうれい」症状とも呼ばれ、分げつが少なく、枯死します。幼穂形成期以降の感染では出穂しないか、出穂しても出すくみ症状となり、これらの症状によって減収します。



縞状病斑とゆうれい症状



出すくみ穂

(2) 病原の特徴及び伝染

ヒメトビウンカが媒介する縞葉枯ウイルスによるウイルス病で、一度保毒したヒメトビウンカは死ぬまでウイルスを保毒するほか、卵を通じて次世代にも伝染します。麦類や畦畔雑草地で増殖したヒメトビウンカ第1世代保毒虫が、水田に移動してイネに感染させ、発病します。また、移植時期が6月中下旬のイネでは第2世代成虫が7月上旬頃から水田に飛来し、ウイルスを媒介します。感染・発病しやすい時期はイネの生育初期～幼穂形成期までで、その後は感染しにくくなります。

本県主要奨励品種のうち、本県育成の「彩のきずな」「彩のかがやき」は本病に抵抗性を持っていますが、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」は罹病性です。特に、6月移植の「キヌヒカリ」は、本病感受性が高い時期ため、ヒメトビウンカが多発す

ると被害が大きくなる可能性があります。



ヒメトビウンカ 5 齢幼虫 (体長約 2mm)

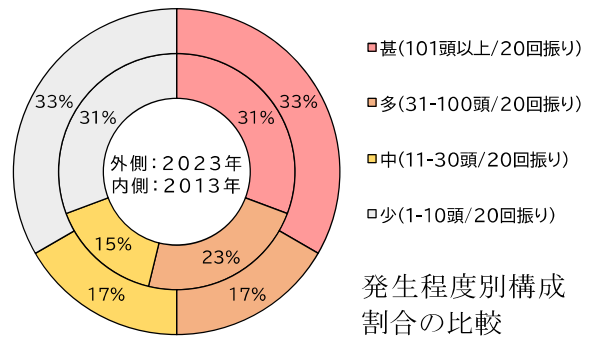


ヒメトビウンカ雌成虫 (全長約 4mm)

(3) ヒメトビウンカの発生状況

5 月中旬頃実施した麦類ほ場内でのヒメトビウンカの叩き出し調査の結果は 21.8 頭/㎡で、過去 10 年では極端に高かった 2013 年 (74.9 頭/㎡) に次いで高い状況でした。

6 月中旬に実施した本田内のすくい取り調査 (20 回振り) の結果も平均虫数 68.8 頭と、県内で縞葉枯病が多発した 2013 年の平均虫数 90.5 頭に次ぐ本田生息密度となっています。さらに、すくい取り調査結果を発生程度別に区分すると、甚発生 3 割以上、甚発生・多発生併せて 5 割以上と、2013 年に非常によく似た発生程度別構成割合となっています。



(4) 防除対策

縞葉枯病は、発生してからの防除はできないので、媒介虫であるヒメトビウンカの防除が重要です。

また、ヒメトビウンカは黒すじ萎縮ウイルスも媒介し、2013 年には「彩のかがやき」等で感染株が見られました。ヒメトビウンカ多発時は、縞葉枯病抵抗性品種であっても防除が必要となります。



黒すじ萎縮病によるわい化株

ヒメトビウンカを対象とする箱施薬を実施していない場合は、速やかに本田で

の薬剤防除を行いましょう。

表 ヒメトビウンカの本田防除薬剤例(地上散布及び無人航空機散布両対応)

薬 剤 名	IRAC コード※	使用時期	使用回数
スタークル1キロH粒剤	4A	収穫7日前まで	3回以内
ダントツフロアブル	4A	収穫7日前まで	3回以内
エクシードフロアブル	4C	収穫7日前まで	3回以内
エミリアフロアブル	4F	収穫7日前まで	2回以内
キラップフロアブル	2B	収穫14日前まで	2回以内

(使用基準は令和5年6月30日現在)

※ IRACコード及びFRACコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びFRAC（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中（令和5年5月1日～8月31日）

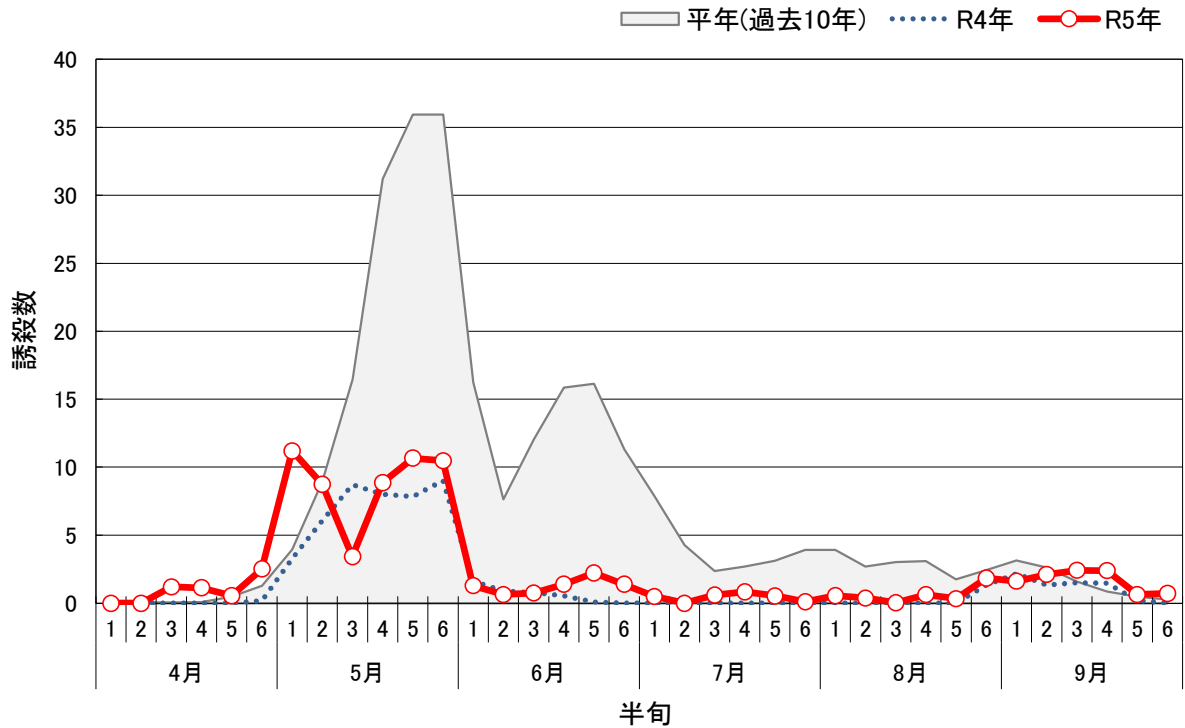
問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661

(2) 病虫害発生予察調査等結果

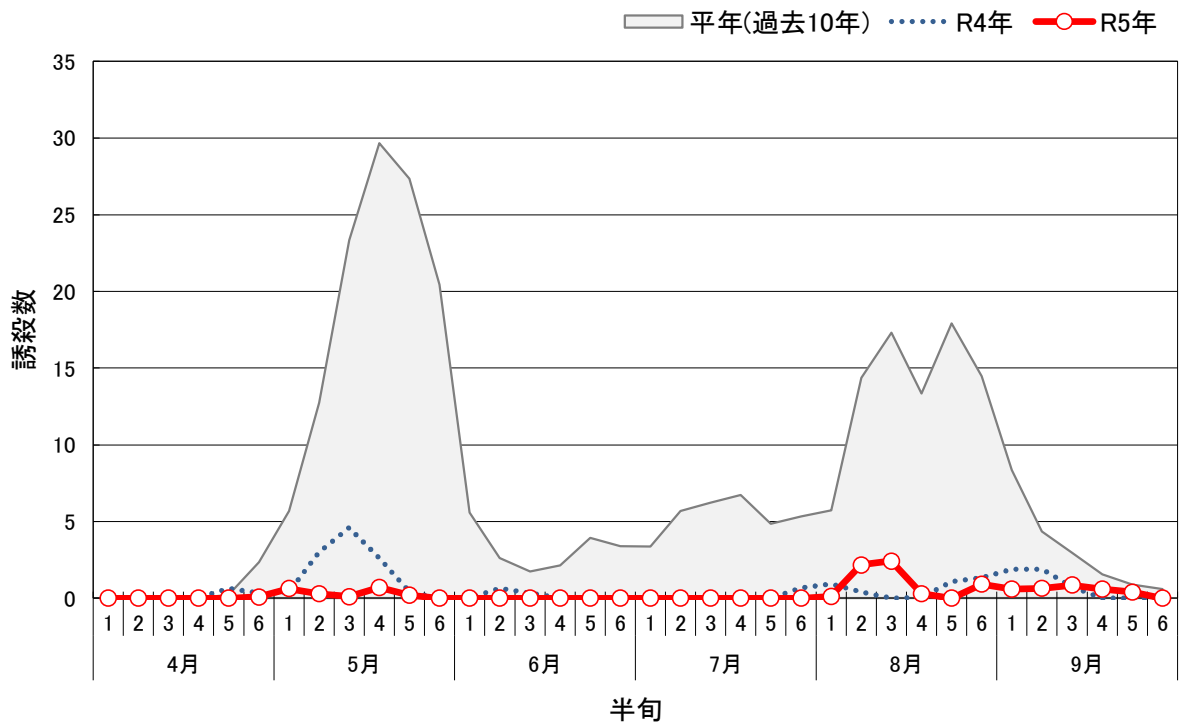
ア 水稲・麦

(ア) フタオビコヤガ (イネアオムシ) のフェロモントラップ調査 (4~9月)

対象作物:水稲 調査地点:熊谷市中曽根



対象作物:水稲 調査地点:加須市戸室



(イ) 麦ほ場におけるウンカ・ヨコバイ類生息密度調査(5月)

調査方法： 麦類の乳熟期(令和5年5月11日～22日)に、県内15地点の麦類ほ場において、1地点3か所で1m幅(0.2～0.6m²)の麦穂を10回叩いて落ちて来るヒメトビウンカを採取し、1m²当たりの生息密度を算出した。

調査結果： 令和5年度のヒメトビウンカの麦類叩き出し調査の結果は21.8頭/m²で、過去10年では極端に高かった平成25年(74.9頭/m²)に次いで高い。また、調査地点によるばらつきが大きいのが、約3割の5調査地点で平年(16.7頭/m²)以上の生息密度となっている。

表. 令和5年5月麦類ウンカ・ヨコバイ生息密度調査結果 (単位： 頭/m²)

調査場所	調査月日	麦種	ヒメトビウンカ			ツマグロヨコバイ		
			成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計
川越市古谷上	5/22	小麦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
坂戸市片柳	5/22	小麦	1.7	5.6	7.2	0.0	2.2	2.2
熊谷市樋春	5/16	小麦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
熊谷市中曾根	5/16	小麦	0.0	38.9	38.9	0.0	0.0	0.0
川島町戸守	5/17	小麦	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
熊谷市高本	5/16	小麦	0.0	7.8	7.8	0.0	0.0	0.0
鴻巣市屈巢	5/12	小麦	0.0	4.4	4.4	0.0	0.0	0.0
行田市上池守	5/12	小麦	0.0	6.7	6.7	0.0	4.4	4.4
行田市前谷	5/12	小麦	0.0	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0
加須市大越	5/12	小麦	0.0	120.0	120.0	0.0	0.0	0.0
熊谷市飯塚	5/11	小麦	0.0	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0
上里町長浜	5/11	小麦	0.8	20.0	20.8	0.0	2.5	2.5
本庄市児玉町	5/11	小麦	0.0	5.3	5.3	0.0	2.7	2.7
白岡市太田新井	5/11	大麦	0.0	72.2	72.2	0.0	0.0	0.0
蓮田市駒崎	5/11	小麦	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
平均(15地点)			0.2	21.6	21.8	0.0	0.8	0.8
昨年(令和4年)			0.5	17.5	18.0	0.0	0.7	0.7
平年値(過去10年間:平成25年～令和4年)			2.3	14.4	16.7	0.1	0.5	0.5

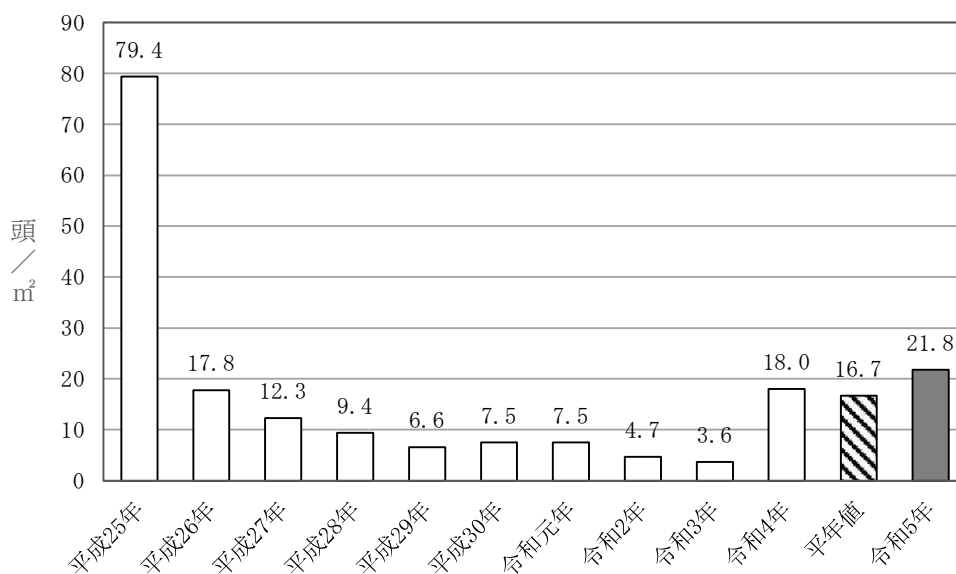


図. 令和5年5月ヒメトビウンカ密度調査結果 (麦類叩き出し)

(ウ) 予察灯調査 (5~9月)

病害虫名		ニカメイガ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市 南田島	1	22	0	4	5	24	
	2	14	0	19	7	7	
	3	6	1	29	8	3	
	4	1	1	27	28	1	
	5	12	0	11	51	0	
	6	13	0	9	47	0	
	計	68	2	99	146	35	350
	平年値	1.1	1.7	6.2	3.9	3.1	16.0
川島町 上八ツ林	1	0	1	3	2	5	
	2	0	1	2	3	4	
	3	0	2	0	3	4	
	4	8	0	0	8	2	
	5	3	1	0	4	2	
	6	2	1	0	1	0	
	計	13	6	5	21	17	62
	平年値	3.6	4.3	2.2	1.2	1.2	12.5
熊谷市 玉井	1	0	0	0	0	0	
	2	0	1	0	0	0	
	3	0	1	0	0	0	
	4	0	1	0	2	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
	計	0	3	0	2	0	5
	平年値	2.9	5.8	2.7	2.0	2.1	15.5
本庄市 吉田林	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0
	平年値	1.1	1.2	7.4	4.5	1.3	15.5
加須市 大越	1	8	3	3	0	8	
	2	7	5	1	1	8	
	3	2	2	1	1	3	
	4	8	5	0	0	1	
	5	1	1	12	3	0	
	6	3	3	9	3	0	
	計	29	19	26	8	20	102
	平年値	29.6	7.7	9.4	12.6	4.0	61.4
春日部市 樋籠	1	0	2	0	8	5	
	2	0	3	0	4	3	
	3	1	1	6	8	0	
	4	2	4	9	17	0	
	5	2	1	8	23	0	
	6	2	1	8	16	0	
	計	7	12	31	76	8	134
	平年値	3.2	2.5	6.1	7.8	1.3	20.9

病害虫名		イネミズウムシ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市 南田島	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0
	平年値	2.6	1.4	17.5	6.6	4.5	32.6
川島町 上八ツ林	1	0	1	0	3	0	
	2	0	0	1	0	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	2	0	0	0	0	
	5	2	0	0	0	0	
	6	2	0	0	1	0	
	計	6	1	1	4	0	12
	平年値	0.7	2.1	1.7	0.5	0.1	5.1
熊谷市 玉井	1	0	0	0	0	0	
	2	1	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	0	2	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	3	0	0	
	計	1	0	5	0	0	6
	平年値	0.9	1.9	9.5	1.8	0.1	14.2
本庄市 吉田林	1	0	0	0	2	0	
	2	0	0	0	2	0	
	3	0	0	0	1	0	
	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	5	0	5
	平年値	0.4	0.6	0.7	0.9	0.2	2.8
加須市 大越	1	0	0	1	5	1	
	2	0	0	17	0	1	
	3	0	0	79	2	0	
	4	45	0	90	0	0	
	5	5	1	38	1	0	
	6	0	0	16	0	0	
	計	50	1	241	8	2	302
	平年値	21.4	1.6	86.4	7.8	0.0	116.3
春日部市 樋籠	1	0	0	1	3	1	
	2	0	1	1	1	1	
	3	0	0	23	1	0	
	4	0	0	37	6	2	
	5	1	0	12	5	0	
	6	1	0	14	2	0	
	計	2	1	88	18	4	113
	平年値	13.7	3.9	136.0	8.8	0.1	162.5

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH25~R1年度と大越R3~R4の9年間の平均値を使用。

病害虫名		ツマグロヨコバイ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	0	1	0	
	2	0	0	0	2	0	
川越市	3	0	0	1	1	0	
南田島	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	1	4	0	5	
平年値	0.0	0.4	1.7	4.2	1.6	7.9	
	1	0	0	0	8	0	
	2	0	0	2	3	3	
川島町	3	0	0	12	7	0	
上八ツ林	4	0	0	4	6	1	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	1	
計	0	0	18	24	5	47	
平年値	1.1	3.3	31.4	16.7	40.2	92.7	
	1	0	0	0	0	3	
	2	0	0	4	1	1	
熊谷市	3	0	0	4	0	8	
玉井	4	0	0	3	0	1	
	5	0	0	1	0	0	
	6	0	0	4	0	0	
計	0	0	16	1	13	30	
平年値	0.6	0.7	9.5	22.8	69.0	102.6	
	1	0	0	0	1	4	
	2	0	0	1	0	8	
本庄市	3	0	0	6	3	35	
吉田林	4	0	0	4	6	120	
	5	0	0	0	1	9	
	6	0	0	0	7	0	
計	0	0	11	18	176	205	
平年値	0.9	3.3	13.1	141.8	376.3	535.4	
	1	0	0	0	11	4	
	2	0	0	3	1	6	
加須市	3	0	0	13	1	19	
大越	4	0	0	3	26	4	
	5	0	1	14	8	2	
	6	0	0	27	10	0	
計	0	1	60	57	35	153	
平年値	1.6	8.6	71.2	76.8	66.0	208.2	
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	2	0	1	
春日部市	3	0	0	5	0	0	
樋籠	4	0	0	1	3	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	1	5	0	
計	0	0	9	8	1	18	
平年値	0.3	10.0	7.1	5.5	2.9	25.8	

病害虫名		セジロウンカ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
川越市	3	0	0	0	0	0	
南田島	4	0	0	0	1	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	1	0	1
平年値	0.0	1.5	13.2	124.7	57.7	197.1	
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
川島町	3	0	0	0	0	0	
上八ツ林	4	0	0	0	1	1	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	1	1	2
平年値	0.0	0.3	2.6	4.0	4.2	11.1	
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	1	1	1	
熊谷市	3	0	0	0	0	0	
玉井	4	0	0	1	1	1	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	1	1	0	
計	0	0	3	3	2	8	
平年値	0.0	0.1	4.8	18.7	12.1	35.7	
	1	0	0	0	2	0	
	2	0	0	0	0	0	
本庄市	3	0	0	0	0	0	
吉田林	4	0	0	0	3	2	
	5	0	0	0	1	3	
	6	0	0	1	0	2	
計	0	0	1	6	7	14	
平年値	0.0	0.0	1.2	53.5	19.9	74.6	
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	2	
加須市	3	0	0	0	0	0	
大越	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	2	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	4	4
平年値	0.0	0.6	2.2	7.5	4.1	13.1	
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	1	
春日部市	3	0	0	0	0	0	
樋籠	4	0	0	0	2	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	2	1	3	
平年値	0.1	0.8	1.1	2.1	0.2	4.3	

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH25～R1年度と大越R3～R4の9年間の平均値を使用。

病害虫名		ヒメトビウンカ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	2	123	26	
	2	0	0	7	17	8	
川越市	3	0	0	1	1	0	
南田島	4	0	0	11	40	0	
	5	0	0	4	20	0	
	6	0	0	58	3	0	
計	0	0	83	204	34	321	
平年値	3.8	28.3	276.7	257.4	11.4	577.6	
	1	0	1	0	97	3	
	2	0	0	2	49	1	
川島町	3	0	1	9	12	0	
上八ツ林	4	4	0	9	7	1	
	5	1	3	0	2	0	
	6	3	1	0	3	0	
計	8	6	20	170	5	209	
平年値	1.9	15.1	195.2	93.0	17.7	322.9	
	1	0	0	27	69	30	
	2	0	0	30	26	10	
熊谷市	3	0	0	20	29	7	
玉井	4	1	0	46	23	4	
	5	0	1	31	12	0	
	6	2	11	192	25	0	
計	3	12	346	184	51	596	
平年値	4.9	27.8	387.5	291.0	31.6	742.8	
	1	0	0	6	195	21	
	2	0	3	38	45	4	
本庄市	3	0	0	20	28	21	
吉田林	4	0	0	60	31	10	
	5	0	0	30	20	1	
	6	0	0	132	33	1	
計	0	3	286	352	58	699	
平年値	3.1	5.2	33.1	160.9	40.1	242.4	
	1	0	9	132	579	24	
	2	0	0	154	391	11	
加須市	3	0	1	40	159	12	
大越	4	4	2	66	76	3	
	5	3	2	33	24	3	
	6	7	118	252	23	0	
計	14	132	677	1252	53	2128	
平年値	0.6	20.8	113.6	326.3	7.8	431.8	
	1	0	0	4	11	1	
	2	0	0	4	1	9	
春日部市	3	0	0	3	5	0	
樋籠	4	0	0	8	7	1	
	5	0	0	7	2	0	
	6	0	5	13	0	0	
計	0	5	39	26	11	81	
平年値	0.5	26.4	21.2	13.7	2.4	64.2	

病害虫名		フタオビコヤガ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
川越市	3	0	0	0	0	0	
南田島	4	0	0	0	1	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	1	0	1
平年値	0.6	1.8	7.0	16.9	3.4	29.7	
	1	0	0	4	5	2	
	2	1	0	0	0	4	
川島町	3	0	0	2	1	2	
上八ツ林	4	1	0	1	0	3	
	5	2	0	0	0	2	
	6	2	0	0	2	1	
計	6	0	7	8	14	35	
平年値	5.5	4.9	8.0	13.1	3.4	34.9	
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
熊谷市	3	0	0	0	0	1	
玉井	4	0	0	0	0	1	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	2	2	
平年値	0.3	0.9	1.0	7.4	5.0	14.6	
	1	0	0	0	0	1	
	2	0	0	0	0	2	
本庄市	3	0	0	0	0	8	
吉田林	4	0	0	0	1	2	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	1	13	14	
平年値	0.1	1.6	16.3	39.4	14.9	72.3	
	1	0	0	0	6	9	
	2	0	1	1	9	6	
加須市	3	0	0	0	21	3	
大越	4	0	0	3	14	0	
	5	0	0	4	18	0	
	6	0	0	1	10	0	
計	0	1	9	78	18	106	
平年値	3.8	5.9	22.3	37.9	9.4	74.0	
	1	0	0	0	0	2	
	2	0	0	0	1	2	
春日部市	3	0	0	0	3	2	
樋籠	4	0	1	0	4	1	
	5	0	0	0	3	0	
	6	0	0	0	1	0	
計	0	1	0	12	7	20	
平年値	0.8	2.5	1.2	4.5	0.3	9.3	

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH25～R1年度と大越R3～R4の9年間の平均値を使用。

病害虫名		斑点米カメムシ類(イネカメ、イネホソを除く)					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市 南田島	1	0	0	0	3	3	
	2	1	2	2	0	3	
	3	0	0	0	2	7	
	4	1	0	3	14	6	
	5	0	0	0	6	1	
	6	0	0	1	13	0	
	計	2	2	6	38	20	68
平年値	0.4	1.4	6.4	9.3	3.7	21.2	
川島町 上八ツ林	1	0	0	2	0	2	
	2	0	0	5	0	0	
	3	0	0	0	2	0	
	4	0	0	2	1	2	
	5	0	2	0	1	0	
	6	0	2	0	3	2	
	計	0	4	9	7	6	26
平年値	0.2	3.5	3.8	10.2	4.6	22.3	
熊谷市 玉井	1	0	0	0	1	2	
	2	0	0	1	0	1	
	3	0	0	1	0	7	
	4	0	0	3	4	12	
	5	0	1	2	2	0	
	6	0	1	3	1	6	
	計	0	2	10	8	28	48
平年値	0.1	1.1	0.8	1.6	0.6	4.2	
本庄市 吉田林	1	0	0	2	2	35	
	2	0	2	5	1	8	
	3	0	0	5	5	43	
	4	2	1	14	15	59	
	5	0	1	19	28	15	
	6	2	1	7	40	52	
	計	4	5	52	91	212	364
平年値	1.3	5.7	12.7	14.3	12.9	46.9	
加須市 大越	1	0	1	1	2	1	
	2	0	0	0	1	4	
	3	0	0	1	1	2	
	4	0	0	4	3	7	
	5	0	0	4	5	0	
	6	0	0	9	11	0	
	計	0	1	19	23	14	57
平年値	0.2	1.4	4.1	16.0	5.9	25.2	
春日部市 樋籠	1	0	0	0	0	4	
	2	0	0	2	0	4	
	3	0	0	1	1	9	
	4	0	0	2	1	9	
	5	0	0	0	0	3	
	6	0	0	0	0	6	
	計	0	0	5	2	35	42
平年値	1.6	5.1	3.0	2.3	1.0	13.0	

病害虫名		イネホソミドリカスミカメ (別和名:アカヒゲホソミドリカスミカメ)					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市 南田島	1	0	2	7	10	12	
	2	0	2	15	2	0	
	3	0	2	23	0	0	
	4	0	4	28	7	0	
	5	0	5	2	0	0	
	6	4	12	6	13	0	
	計	4	27	81	32	12	156
平年値	0.4	33.0	67.0	58.0	12.1	170.5	
川島町 上八ツ林	1	0	0	6	8	4	
	2	0	0	15	5	1	
	3	0	2	4	5	1	
	4	0	0	8	14	0	
	5	0	0	0	1	0	
	6	0	3	0	4	0	
	計	0	5	33	37	6	81
平年値	0.3	12.8	29.6	9.3	4.2	56.2	
熊谷市 玉井	1	0	62	25	8	14	
	2	2	38	51	5	8	
	3	0	15	23	3	6	
	4	0	27	22	13	7	
	5	1	20	15	3	1	
	6	14	32	43	16	4	
	計	17	194	179	48	40	478
平年値	24.4	280.1	270.1	108.3	31.8	714.7	
本庄市 吉田林	1	0	13	24	35	14	
	2	0	61	70	7	6	
	3	0	8	30	7	27	
	4	0	42	59	28	25	
	5	0	19	90	20	3	
	6	13	22	118	37	14	
	計	13	165	391	134	89	792
平年値	1.6	44.8	130.4	70.9	22.0	269.7	
加須市 大越	1	0	2	5	9	19	
	2	0	7	10	3	5	
	3	0	5	6	5	7	
	4	0	5	4	25	10	
	5	0	1	11	10	9	
	6	8	11	53	13	0	
	計	8	31	89	65	50	243
平年値	2.7	62.6	44.4	38.9	5.8	149.3	
春日部市 樋籠	1	0	1	3	4	4	
	2	0	3	2	0	0	
	3	0	1	17	2	2	
	4	0	2	3	2	6	
	5	0	3	9	0	1	
	6	1	0	7	2	3	
	計	1	10	41	10	16	78
平年値	1.4	20.5	10.5	6.8	0.9	40.1	

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH25～R1年度と大越R3～R4の9年間の平均値を使用。

病害虫名		イネカメムシ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
川越市	3	0	0	0	3	0	
南田島	4	0	0	0	4	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	0	7	0	7
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
川島町	3	0	0	0	0	0	
上八ツ林	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	0	0	0	0
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	2	
	2	0	0	0	0	1	
熊谷市	3	0	0	0	0	1	
玉井	4	0	0	0	0	2	
	5	0	0	0	1	0	
	6	0	0	0	6	1	
計		0	0	0	7	7	14
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
本庄市	3	0	0	0	0	0	
吉田林	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	1	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	0	1	0	1
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	3	6	
	2	0	0	0	0	4	
加須市	3	0	0	2	3	6	
大越	4	0	0	0	14	9	
	5	0	0	1	24	0	
	6	0	0	2	31	1	
計		0	0	5	75	26	106
平年値		0.0	0.1	0.4	2.0	0.2	2.7
	1	0	0	4	4	4	
	2	0	0	9	3	1	
春日部市	3	0	0	6	6	1	
樋籠	4	0	0	4	2	4	
	5	0	0	11	6	0	
	6	0	0	11	26	12	
計		0	0	45	47	22	114
平年値		0.0	0.0	0.2	0.7	0.1	1.0

病害虫名		トビイロウンカ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
川越市	3	0	0	0	2	0	
南田島	4	0	0	1	2	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	1	4	0	5
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	1	
川島町	3	0	0	0	0	1	
上八ツ林	4	0	0	1	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	1	0	2	3
平年値		0.0	0.0	0.0	0.2	0.8	1.0
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
熊谷市	3	0	0	0	0	0	
玉井	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	1	0	0	0	
計		0	1	0	0	0	1
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
本庄市	3	0	0	0	0	0	
吉田林	4	0	0	1	0	0	
	5	0	0	1	0	0	
	6	0	0	2	0	0	
計		0	0	4	0	0	4
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	2	0	
	2	0	0	0	3	0	
加須市	3	0	0	2	0	0	
大越	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	1	1	0	
	6	0	1	1	0	0	
計		0	1	4	6	0	11
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
春日部市	3	0	0	0	0	0	
樋籠	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	0	0	0	0
平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH25～R1年度と大越R3～R4の9年間の平均値を使用。

(エ) いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（BLASTAM）（5～9月）

a 葉いもち発生予測システム（BLASTAM）について

イネいもち病は空気伝染性病害であるため、発生には気象条件が大きく影響する。気温が20～25℃で曇雨天の日が続き、イネの葉に水滴が付いている状態がいもち病菌の分生子の発芽、侵入、蔓延に好適な条件であり、発生が助長される。

葉いもち発生予測システム（BLASTAM）では、アメダス各地点の気象データの降水量、日照時間、風速からイネ葉面の濡れ時間（湿潤時間）を推定し、気温との組み合わせで、いもち病感染好適条件を判定するものである。

b イネいもち病の発生状況について

ホームページ上で、6月1日から15日ごとに、県内の感染好適日の出現状況を発表し、平年（過去10年間）との比較を数値化することで、適期防除を啓発した。

埼玉県において感染好適日が初出現したのは5月20日（平年6月7日）であり、平年より早かった。例年では5月末から7月中旬ごろまでが梅雨であり、いもち病の感染好適日が多く出現し、本年も集計開始から7月6日までに39日と平年(36.7日)以上の感染好適日が出現した。しかし、その後本年は記録的な猛暑と乾燥条件に見舞われ、7月7日から集計終了までの感染好適日の出現日数は0日と平年(51.8日)と比較して非常に少なかった。このような夏季の異常な高温と降水量不足の影響もあり、いもち病の感染好適日は県内8か所で計39日と平年（88.54日）より少ない日数であった。

また、7月中旬に実施した、イネいもち病（葉いもち）発生予察調査では、発病地点率は22.7%と平年より大幅に少なかった（平年40.6%）。

7月中旬以降は高温少雨が継続し、ほとんど感染好適日が出現しなかったが、水不足や肥料過多に起因する、いわゆる「ひでりいもち」の発生が見られた結果、本年のいもち病の発生量はほぼ平年並みとなった。

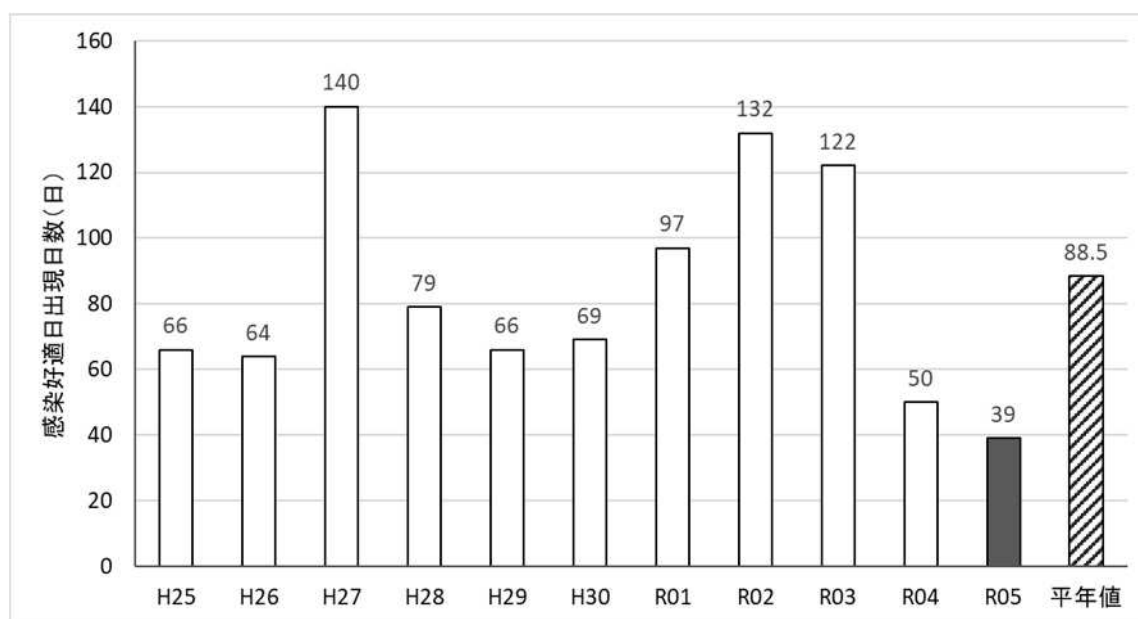


図. 葉いもち感染好適日の出現日数
(5月1日～9月30日における県内8地点の合計日数)

表. いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（令和5年5～9月）

※JPP-NETより引用

地点 月日	寄居	熊谷	久喜	秩父	鳩山	たさい まい	越谷	所沢
5月1日	—	—	—	—	—	4	—	—
5月2日	—	—	—	—	3	—	—	—
5月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月5日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月6日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月7日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月8日	3	3	—	3	—	3	—	—
5月9日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月10日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月11日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月12日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月13日	3	—	—	—	3	—	—	—
5月14日	—	4	—	—	4	4	—	—
5月15日	1	1	1	3	1	1	4	3
5月16日	3	3	—	—	—	3	—	3
5月17日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月18日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月19日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月20日	●	●	—	●	●	●	●	—
5月21日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月23日	—	3	3	3	—	3	—	—
5月24日	3	—	3	3	3	3	3	—
5月25日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月26日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月27日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月28日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月29日	4	4	—	—	—	—	—	—
5月30日	1	●	●	—	—	●	—	—
5月31日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月5日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月6日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月7日	4	—	—	—	—	—	—	—
6月8日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月9日	—	—	—	4	—	—	—	—
6月10日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月11日	●	●	●	●	—	4	—	●
6月12日	●	●	●	●	●	●	●	●
6月13日	●	●	●	—	●	●	—	●
6月14日	●	—	—	●	—	—	—	—
6月15日	—	●	—	—	●	—	●	—
6月16日	—	—	●	●	●	—	●	—
6月17日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月19日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月20日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月21日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月23日	—	—	—	—	—	—	—	—

地点 月日	寄居	熊谷	久喜	秩父	鳩山	たさい まい	越谷	所沢
6月24日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月25日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月26日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月27日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月28日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月29日	—	—	—	—	—	2	—	—
6月30日	—	—	—	—	—	2	—	2
7月1日	2	3	—	●	3	3	—	2
7月2日	—	—	—	—	4	—	—	—
7月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月5日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月6日	2	—	—	●	2	—	—	—
7月7日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月8日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月9日	—	2	2	—	2	2	—	—
7月10日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月11日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月12日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月13日	—	—	—	2	—	—	—	—
7月14日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月15日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月16日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月17日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月18日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月19日	—	—	—	—	—	—	3	—
7月20日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月21日	2	—	—	—	—	—	—	—
7月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月23日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月24日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月25日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月26日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月27日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月28日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月29日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月31日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月1日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月2日	—	—	—	2	2	—	—	—
8月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月5日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月6日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月7日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月8日	—	—	—	—	—	—	—	3
8月9日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月10日	3	3	—	—	—	—	—	—
8月11日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月12日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月13日	—	—	—	—	—	—	—	—
} 感染好適日が出現しなかったため省略								
9月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
計	5	6	5	7	5	4	4	3
平年値	12.1	11.4	10.2	13	12.5	8.9	12.5	7.9

・発生指標の解説(数字の1～4は感染のしやすさの段階を示すものではない。)

●	感染好適条件	湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間満ち、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある
1	準好適条件 1	湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満
2	準好適条件 2	湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が21℃以上
3	準好適条件 3	湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15～25℃の範囲外
4	準好適条件 4	湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い
—	好適条件なし	
?	判定不能	

(オ) トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ飛来予測日回数(5~9月)

令和5年

月日	本年	平年	月日	本年	平年	月日	本年	平年	月日	本年	平年	月日	本年	平年
05/01	0	0.0	06/01	0	0.0	07/01	0	0.0	08/01	0	0.0	09/01	0	0.0
05/02	0	0.0	06/02	0	0.0	07/02	0	0.0	08/02	0	0.0	09/02	0	0.0
05/03	0	0.1	06/03	0	0.1	07/03	0	0.1	08/03	0	0.1	09/03	0	0.1
05/04	0	0.0	06/04	0	0.0	07/04	0	0.0	08/04	0	0.0	09/04	0	0.0
05/05	0	0.0	06/05	0	0.0	07/05	0	0.0	08/05	0	0.0	09/05	0	0.0
05/06	0	0.0	06/06	0	0.0	07/06	0	0.0	08/06	0	0.0	09/06	0	0.0
05/07	0	0.2	06/07	0	0.2	07/07	0	0.2	08/07	0	0.2	09/07	0	0.2
05/08	0	0.1	06/08	0	0.1	07/08	0	0.1	08/08	0	0.1	09/08	0	0.1
05/09	0	0.0	06/09	1	0.0	07/09	1	0.0	08/09	0	0.0	09/09	0	0.0
05/10	0	0.0	06/10	0	0.0	07/10	0	0.0	08/10	0	0.0	09/10	0	0.0
05/11	0	0.1	06/11	0	0.1	07/11	0	0.1	08/11	0	0.1	09/11	0	0.1
05/12	0	0.1	06/12	0	0.1	07/12	0	0.1	08/12	0	0.1	09/12	0	0.1
05/13	0	0.2	06/13	0	0.2	07/13	0	0.2	08/13	0	0.2	09/13	0	0.2
05/14	0	0.0	06/14	0	0.0	07/14	0	0.0	08/14	0	0.0	09/14	0	0.0
05/15	0	0.0	06/15	0	0.0	07/15	0	0.0	08/15	0	0.0	09/15	0	0.0
05/16	0	0.2	06/16	0	0.2	07/16	0	0.2	08/16	0	0.2	09/16	0	0.2
05/17	0	0.1	06/17	0	0.1	07/17	0	0.1	08/17	0	0.1	09/17	0	0.1
05/18	0	0.1	06/18	0	0.1	07/18	0	0.1	08/18	0	0.1	09/18	0	0.1
05/19	0	0.2	06/19	0	0.2	07/19	0	0.2	08/19	0	0.2	09/19	0	0.2
05/20	0	0.1	06/20	0	0.1	07/20	0	0.1	08/20	0	0.1	09/20	0	0.1
05/21	0	0.1	06/21	0	0.1	07/21	0	0.1	08/21	0	0.1	09/21	0	0.1
05/22	0	0.1	06/22	0	0.1	07/22	0	0.1	08/22	0	0.1	09/22	0	0.1
05/23	0	0.0	06/23	0	0.0	07/23	0	0.0	08/23	0	0.0	09/23	0	0.0
05/24	0	0.0	06/24	0	0.0	07/24	0	0.0	08/24	0	0.0	09/24	0	0.0
05/25	0	0.0	06/25	0	0.0	07/25	0	0.0	08/25	0	0.0	09/25	0	0.0
05/26	0	0.1	06/26	0	0.1	07/26	0	0.1	08/26	0	0.1	09/26	0	0.1
05/27	0	0.0	06/27	0	0.0	07/27	0	0.0	08/27	0	0.0	09/27	0	0.0
05/28	0	0.1	06/28	0	0.1	07/28	0	0.1	08/28	0	0.1	09/28	0	0.1
05/29	0	0.0	06/29	0	0.0	07/29	0	0.0	08/29	0	0.0	09/29	0	0.0
05/30	0	0.0	06/30	0	0.0	07/30	0	0.0	08/30	0	0.0	09/30	0	0.0
05/31	0	0.0				07/31	0	0.0	08/31	0	0.0	合計	2	9.7

(注1) 平年値は、平成24~令和3年までの過去10年間の平均値(令和4年度は6月26日以降欠測であったため)

(注2) 数値の説明: 0...飛来無し日 1...飛来有り日

(注3) 飛来予測日は、JPP-NET(一社)日本植物防疫協会)が提供する、『ウンカ飛来予測システム』の数値を使用

(注4) トビイロウンカ、セジロウンカは、埼玉県内で越冬できず、中国大陸からジェット気流に乗って飛来する。

(一社)日本植物防疫協会では、大陸での害虫の飛び立ち日と気流の状況から、日本国内各地点への飛来予測日を算出する情報を提供している。予測飛来日回数が多いほど、害虫の多発が予想される。



トビイロウンカによる坪枯れ被害



トビイロウンカ成虫



セジロウンカ成虫

(カ) スクミリンゴガイの被害状況(6~7月)調査の結果

- 1 調査年月日:被害状況調査は、田植後1~2か月後に調査(6~7月頃に調査する)
- 2 調査場所:発生地点での拡大状況を水田及び排水路で実施する/各担当地域
- 3 調査項目等:次表のとおり(調査日、品種、生息域面積、被害面積率、被害面積、被害状況)
- 4 具体的な調査方法

生息域面積:生息域面積は水田や用排水路の貝や卵塊の目視
 被害面積率:欠株率1%以上のほ場割合
 卵塊数:用・排水路又は畦畔10m当たりの平均卵塊数
 被害状況:欠株の目視



調査年月日	主な調査地点	品種名	作型	移植時期	生息域面積 (ha)	被害面積率 (%)	被害面積 (ha)	卵塊数 (塊/10m)	被害状況 (被害田の欠株率)		備考
									平均 (%)	最大 (%)	
令和5年 6月20日	加須市琴寄	コシヒカリ	早期	4月下旬	56	10	5.6	22.1	17	70	欠株が多いほ場が数筆ある。排水路の卵塊も昨年より増えており、最大は89塊/10m。
5年 6月20日	加須市外記新田	コシヒカリ	早期	4月下旬	12	5	0.6	2.0	3	5	昨年より欠株が目立つが、無防除水田でも大きな被害はない。
5年 6月20日	加須市新川通	オオナリ	早植	5月下旬	10	7	0.7	17.6	5	5	外記新田隣接地域の飼料用米。欠株は少ないが、一部に卵塊が多い畦畔(最大41塊/10m)がある。
5年 6月20日	幸手市千塚	コシヒカリ	早期	5月上旬	5	3	0.2	4.6	2	5	昨年より欠株が少なく、卵塊数も減少。
5年 6月22日	さいたま市西区宝来	不明	早植	5月上旬	7	2	0.1	8.3	1	1	欠株は昨年同様少ないが、卵塊はやや多く、一部に卵塊が多い排水路(最大22塊/10m)がある。
5年 6月22日	さいたま市桜区	不明	早植~普通	5月中旬~6月中旬	45	5	2.3	4.9	3	10	移植期が5月中旬から6月中旬まで混在しており、移植が遅いほ場で欠株が目立つ。昨年より、被害田は減少。
5年 7月7日	富士見市南畑新田	不明	早植~普通	5月中旬~6月中旬	73	1	0.7	9.9	1	5	排水路に貝が生息しているが、水田には少なく、欠株等の被害も少ない。排水路等の貝や卵塊も昨年より増加。
5年 7月7日	さいたま市西区塚本町	不明	普通	6月上旬	22	1	0.2	9.5	1	1	排水路に貝が生息しているが、水田には少なく、欠株等の被害も少ない。排水路等の貝や卵塊は昨年より増加。
5年 7月6日	吉見町久保田新田	不明	普通	5月下旬	34	3	1.0	10.3	3	5	貝の多い水田は休耕だが、被害水田は昨年よりやや多い。一部に卵塊が多い排水路(最大46塊/10m)がある。
5年 8月1日	鴻巣市大芦	不明	普通	6月中旬	84	1	0.8	10.9	1	5	移植の遅い水田の一部で若干欠株が見られるが、被害水田は昨年より少ない。
5年 8月1日	熊谷市下奈良(北)	不明	普通	6月下旬	33	4	1.3	11.8	1	5	欠株率5%程度の水田が30a程度まとまって存在するが、被害水田は昨年より減少。排水路等の卵塊は昨年より増加。
5年 8月1日	熊谷市中奈良・下奈良(南)	不明	普通	6月下旬	11	20	2.2	-	2	10	欠株率1~2%の水田が多い。水田内に貝や卵塊は見られるが、水路等では卵塊が見られなかった。
5年 8月1日	熊谷市西城	不明	普通	6月下旬	17	30	5.2	9.1	5	15	昨年被害が多かったほ場は休耕となり、極端に大きな被害の水田は減少したが、作付けが継続しているほ場で10~15%の欠株ほ場が2ha程度まとまって存在した。
5年 8月2日	熊谷市今井・下奈良(南)	不明	普通	6月下旬	25	30	7.4	11.3	10	90	90%欠株のほ場は20a程度だが、20~50%欠株のほ場が1ha程度、10~15%欠株のほ場が2ha程度ある。
5年 8月2日	熊谷市善ヶ島	不明	普通	6月下旬	49	10	4.9	12.8	10	40	昨年被害が大きかった地区で大豆への転換や不耕作地の増加により水稻作付が半減。欠株率10%以上のほ場が3ha程度ある。
5年 8月2日	熊谷市八ツ口	不明	普通	6月下旬	72	8	5.8	21.7	20	60	善ヶ島の備前渠用水対岸。排水路の卵塊、被害水田とも昨年より減少しているが、最大卵塊数は124塊/10mと多い。
5年 8月2日	熊谷市弥藤吾	不明	普通	6月下旬	6	5	0.3	67.9	1	3	卵塊は多いが(最大卵塊数254塊/10m)、防除が浸透してきたため、欠株は少ない。
合計(面積)/平均(卵塊数)					560		39.3	14.7			
昨年(令和4年度)					473		22.1	31.7			

(キ) 水稻観察地点調査(6~9月)

a 20回振りすくい取り(頭)

			ヒメトビウンカ				セジロウンカ				ツマグロヨコバイ			
			6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和5年	幼虫	54.7	173.0	72.8	66.5	0.0	0.2	2.0	0.0	0.3	11.8	105.9	17.0
		成虫	13.7	67.9	36.1	23.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	12.8	61.0	27.0
	平年値	幼虫	3.2	6.8	71.0	88.2	0.0	0.0	0.7	0.7	0.1	1.9	157.2	316.8
		成虫	6.0	30.1	76.6	92.0	0.0	0.1	4.4	1.7	3.4	9.2	67.6	109.7
5/20以降の 移植ほ場	令和5年	幼虫	0.0	46.5	650.0	197.3	0.0	0.0	10.3	4.8	0.0	0.0	2.2	85.8
		成虫	0.5	25.3	103.5	109.8	0.0	0.0	1.2	2.8	0.0	1.2	6.7	36.3
	平年値	幼虫	0.1	4.3	138.9	174.9	0.0	0.0	6.1	11.1	0.2	0.1	4.8	28.5
		成虫	1.2	14.4	121.5	84.9	0.0	0.2	6.7	7.4	0.0	0.6	1.7	34.1

			斑点米カメムシ類 (アカヒゲホリミドリカメムシ)				斑点米カメムシ類 上段:イネカメムシ、下段:クモヒカメムシ				斑点米カメムシ類 (その他)			
			6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和5年		0.9	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	2.5	8.0	0.0	0.1	0.3	0.0
	平年値		1.4	0.3	0.1	0.0					0.0	0.1	0.4	0.3
5/20以降の 移植ほ場	令和5年		0.5	1.7	0.5	0.5	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	4.5
	平年値		1.9	1.0	1.8	0.2	0.0	0.0	0.2	1.2	0.0	0.0	0.4	0.4

			イネツトムシ				イネアオムシ			
			6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和5年		0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0
	平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和5年		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2

- ・空欄は移植直後及び収穫後等により調査不能のためデータ無し
- ・平年値：平成28~令和4年の7年間の平均値（イネカメムシは平年値なし）
- ・令和4年度調査地点

【5/20までの移植ほ場】

川越市小中居、吉見町西吉見、熊谷市中曾根、加須市大越、加須市麦倉、春日部市樋籠、幸手市神扇、吉川市中井

【5/20以降の移植ほ場】

坂戸市横沼、毛呂山町箕和田、川島町曲師、嵐山町吉田、本庄市児玉町吉田林、美里町関

b 病虫害発生調査結果

		葉いもち				穂いもち (%)				紋枯病			
		(発病度)				(被害利率)				(発病度)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和5年	0.0	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.3	4.0	24.0
	平年値	0.0	0.9	0.9	2.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.4	3.9	19.8
5/20以降の 移植ほ場	令和5年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	10.0
	平年値	0.0	0.4	2.9	2.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.5	2.0	13.0

		もみ枯細菌病 (%)				ごま葉枯病				ばか苗病 (%)			
		(発病利率)				(発病度)				(発病株率)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和5年	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和5年	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

		縞葉枯病 (%)				心枯線虫病 (%)			
		(発病株率)				(発病株率)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和5年	0.3	5.3	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	2.1	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和5年	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.7	0.9	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0

		ニカメイガ (%)				イネツトムシ (個)				フタオビコヤガ* (頭)			
		(発病株率)				(苞数/25株あたり)				(虫数/1株あたり)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和5年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和5年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1

*別名：イネアオムシ

		コブノメイガ (%)				イネミズゾウムシ (頭)			
		(被害葉率)				(虫数/25株あたり)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和5年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和5年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.3	1.6	0.2	0.0	0.0	0.0

- ・空欄は移植直後及び収穫後等により調査不能のためデータ無し
- ・平年値：平成28～令和4年の7年間の平均値
- ・発病度は「H28 発生予察事業の調査実施基準（農林水産省）」に基づき、算出した。

(ク) イネツトムシ発育予測 (7月)

(有効積算温度シミュレーション計算値：6月1日～)

a 7月4日現在の予測

表1 イネツトムシ第2世代の産卵最盛日～4齢終了までの予測

項目	令和5年予測	令和4年	平年	平年との差
産卵最盛日	7月19日	7月18日	7月21日	平年より2日早い
孵化最盛日	7月23日	7月22日	7月25日	平年より2日早い
3齢脱皮最盛日	8月1日	7月30日	8月2日	平年より1日早い
4齢脱皮最盛日	8月4日	8月2日	8月5日	平年より1日早い

注)：例年多発ほ場では予測値と一致し、少発生ほ場では発生時期が早い

算出方法：令和4年7月4日までの実測気象データ。その後は平年値を入力。

産卵最盛日は(6月1日～有効積算温度539日度の日)。孵化最盛日は(同594日度)

3齢脱皮最盛日は(同722日度)。4齢脱皮最盛日は(772日度) 発育零点は13.4℃。

b 実測気象データによる予測結果

表2 イネツトムシ第2世代の産卵最盛日～4齢終了までの予測結果

項目	令和5年予測	令和4年	平年	平年との差
産卵最盛日	7月19日	7月18日	7月21日	平年より2日早い
孵化最盛日	7月23日	7月22日	7月25日	平年より2日早い
3齢脱皮最盛日	8月1日	7月30日	8月2日	平年より1日早い
4齢脱皮最盛日	8月4日	8月2日	8月5日	平年より1日早い

* 薬剤防除を必要とする目安(孵化最盛日より4～7日の間に密度調査を行う)

孵化直後の幼虫が存在しない場合(既に2～3齢以上に成長)

0.3個体/株 [100株調査で30個体]: 発生数が確定したと推定。

孵化直後の幼虫が存在する場合(1～2齢が中心)

0.05個体/株 [100株調査で5個体]: 今後増加が懸念される。

注) 0.3個体/株の発生によって、5%以下の減収とみなされる。

参考：神奈川以南、千葉県海岸線で越冬しているが、神奈川県のピークが5月下旬として、埼玉県への飛来は6/1としている。

(ケ) フタオビコヤガ(イネアオムシ)発育予測 (7月)

「有効積算温度シミュレーション計算値：フェロモン調査の越冬世代成虫の50%誘殺日(5月4日)の翌日から」

a 7月4日現在の予測

表1 フタオビコヤガの発育次世代予測

項目	令和5年予測	令和4年	平年	平年との差
基準日(越冬世代成虫50%誘殺数)	5月4日	5月12日	—	(基準日は平年値無し)
第1世代成虫発蛾最盛日	6月8日	6月17日	6月17日	平年より9日早い
第2世代成虫発蛾最盛日	7月3日	7月6日	7月11日	平年より8日早い
第3世代成虫発蛾最盛日	7月24日	7月27日	8月2日	平年より9日早い

注)：発育零点は10.2℃

算出方法：令和4年7月4日までの気象データ。その後は平年値を入力。

第1世代成虫発蛾最盛日は(越冬世代成虫50%誘殺日から有効積算温度341日度の日)。

第2世代成虫発蛾最盛日は(越冬世代成虫50%誘殺日から有効積算温度682日度の日)。

第3世代成虫発蛾最盛日は(越冬世代成虫50%誘殺日から有効積算温度1023日度の日)。

b 実測気象データによる予測結果

表2 フタオビコヤガの発育次世代予測結果

項目	令和5年予測	令和4年	平年	平年との差
基準日(越冬世代成虫50%誘殺数)	5月4日	5月12日	—	(基準日は平年値無し)
第1世代成虫発蛾最盛日	6月8日	6月17日	6月17日	平年より9日早い
第2世代成虫発蛾最盛日	7月3日	7月6日	7月11日	平年より8日早い
第3世代成虫発蛾最盛日	7月21日	7月27日	8月2日	平年より12日早い

注)：発育零点は10.2℃

* 薬剤防除を必要とする目安(最盛日の2～7日後)

(コ) いもち病発生状況調査結果(7月)

- 1 調査時期：7月中旬（基準日7月15日）
- 2 調査場所：定点および常発地
- 3 調査項目等：表のとおり
- 4 調査方法：任意の100株について調査

【参考】 発病度について
 1～20：少発生、21～40：中発生
 41～70：多発生、71以上：甚発生



いもち病(葉いもち)
 左:慢性型病斑

調査年月日 (令和)	調査地点	定点又は 常発地別	品種名	移植期	草丈 (cm)	発病 株率 (%)	発病度	病斑の種類		発病 部位	備 考	
								慢性型	進行型			
5年	7月18日	鴻巣市関新田	過去発生地点	不明	5月下旬	72	0	0.0	—	—	—	
〃	7月18日	蓮田市駒崎	過去発生地点	不明	6月中旬	79	1	0.3	1	0	葉	畦畔メヒシバ病斑少ない
〃	7月12日	川越市小中居	定点	コシヒカリ	5月中旬	79.5	0	0.0	—	—	—	
〃	7月12日	坂戸市横沼	定点	むさしの26号	5月下旬	68	0	0.0	—	—	—	
〃	7月12日	毛呂山町箕和田	定点	コシヒカリ	5月中旬	78.6	0	0.0	—	—	—	
〃	7月10日	嵐山町吉田	定点	彩のきずな	6月上旬	48	0	0.0	—	—	—	
〃	7月10日	川島町曲師	定点	コシヒカリ	5月下旬	39	0	0.0	—	—	—	
〃	7月10日	吉見町西吉見	定点	コシヒカリ	5月下旬	76	0.3	0.1	0.3	0	葉	
〃	7月11日	秩父市太田	常発地	不明	6月上旬	75	0	0.0	—	—	—	畦畔のメヒシバの病斑も少ない
〃	7月11日	秩父市小柱	常発地	彩のきずな	6月上旬	88	0	0.0	—	—	—	〃
〃	7月11日	小鹿野町下小鹿野	常発地	不明	6月中旬	60	5	1.3	5	0	葉	
〃	7月11日	皆野町三沢	常発地	コシヒカリ	6月上旬	78	0	0.0	—	—	—	
〃	7月18日	本庄市吉田林	定点	彩のかがやき	6月下旬	42	0	0.0	—	—	—	
〃	7月18日	美里町関	定点	コシヒカリ	5月下旬	74	0	0.0	—	—	—	畦畔のメヒシバの病斑も少ない
〃	7月13日	熊谷市中曾根	定点	コシヒカリ	5月上旬	88	2	0.5	2	0	葉	
〃	7月12日	行田市前谷	旧定点	彩のかがやき	6月下旬	20	0	0.0	—	—	—	
〃	7月12日	加須市麦倉	定点	コシヒカリ	4月下旬	89	0	0.0	—	—	—	
〃	7月12日	加須市大越1	定点	ほしじるし	5月中旬	83	0	0.0	—	—	—	
〃	7月10日	加須市大越2	過去発生地点	不明	6月上旬	75	0	0.0	—	—	—	畦畔のメヒシバは病斑多
〃	7月14日	春日部市樋籠	定点	コシヒカリ	5月上旬	102	0	0.0	—	—	—	
〃	7月14日	吉川市中井	定点	彩のきずな	5月中旬	72	0	0.0	—	—	—	
〃	7月14日	幸手市神扇	定点	コシヒカリ	5月中旬	97	4	1.0	4	0	葉	
調査地点数：22		発病地点数：5		発病地点率：22.7%		平均		0.6	0.1	2.5	0.0	

いもち病発生状況調査 過去の調査結果

調査年月日 (平成)	調査地点数	発病地点数	発病地点率 (%)	平均発病株率 (%)	平均発病度	病斑の種類		備 考(注意報発表の有無など)
						慢性型	進行型	
平成25年	7月中下旬	28	1	3.6	0.1	1.0	0.0	6月末の感染好適日は平年の2倍だったが、定点の調査結果を優先した。
26年	7月中下旬	32	4	12.5	1.3	0.6	0.7	6月1日～7月25日の感染好適日は平年の1.4倍。平坦地でも発生を確認した。
27年	7月中下旬	31	23	74.2	17.7	16.0	1.6	7月9日 注意報発表(葉いもち、穂いもち)
28年	7月中下旬	36	22	61.1	14.8	6.1	2.8	7月27日 注意報発表(葉いもち、穂いもち)
29年	7月中下旬	51	12	23.5	3.6	1.5	0.0	
30年	7月中下旬	22	5	22.7	22.7	1.0	0.0	
令和元年	7月中下旬	23	13	56.5	2.0	2.0	0.3	発生地点率は高かったが、発生程度や発生株率が低かったため、予察情報の発表はしなかった。
2年	7月中下旬	23	14	60.9	4.1	1.0	2.3	7月28日 注意報発表(葉いもち、穂いもち)
3年	7月中下旬	22	13	59.1	12.7	4.6	8.6	7月7日 注意報発表(葉いもち)
4年	7月中下旬	22	7	31.8	5.5	2.5	14.0	
過去10年間平均		29.0	11.4	40.6	8.4	2.1	3.0	

(サ) 水稲の斑点米カメムシ類の畦畔・雑草地発生調査結果(7月)

- 1 調査年月日:7月中旬頃を基準日として調査した。
- 2 調査場所:これまで実施してきた調査地点(畦畔・雑草地・土手等)/各担当地域。
- 3 調査項目等:斑点米カメムシ類の幼虫・成虫別に計数調査した。
次表のとおり。(調査地点、調査日、カメムシ類別、調査場所の状況(雑草の種類、草丈などの管理状況等について分かる範囲で記載する。))
- 4 具体的な調査方法:捕虫網による10往復・20回振り調査。



主な斑点米カメムシ類(表中出現順)

調査年月日	調査地点/種類	イネホソミドリカスミカメ*		アカスジカスミカメ		クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ		トゲシラホシカメムシ		その他		合計 頭	参考 前年 (R4年)	備考 (雑草などの管理状況等)
		幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
5年 7月12日	川越小中居	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	畦畔、その他(イネカメムシ1)、メヒシバ(6cm)とクローバー主体
5年 7月12日	坂戸横沼	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	8	15	農道脇法面、イネ科雑草(1m)とクローバー主体、その他(ブチヒゲカメムシ3)
5年 7月12日	毛呂山箕和田	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	2	5	12	5	休耕地、カモジグサ(60cm)とツクサ主体、その他(ウズラカメムシ7)
5年 7月10日	嵐山町吉田	2	3	3	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	12	0	畦畔
5年 7月10日	川島町曲師	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	8	畦畔
5年 7月10日	吉見町久保田	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	18	畦畔
5年 7月10日	吉見町西吉見	0	13	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	15	27	畦畔
5年 7月11日	本庄市吉田林	103	47	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	156	97	畦畔、メヒシバとイヌムギ(40cm)主体
5年 7月11日	美里町関1	135	75	8	3	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	231	24	畦畔、メヒシバとノビエ(60cm)主体
5年 7月18日	美里町関2	44	18	102	27	0	0	3	5	11	4	0	0	0	2	216	20	ねぎほ場脇、メヒシバとエノコログサ(90cm)主体、その他(フタトゲカメムシ成1、スカシヘリカメムシ成1)
5年 7月13日	熊谷市中曾根1	1	3	0	32	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	43	2	畦畔、通殿川沿い、エノコログサ主体
5年 7月13日	熊谷市中曾根2	10	11	0	66	0	0	1	6	4	2	0	0	1	7	108	2	畦畔、メヒシバ主体、その他(ミナミアオカメムシ成3、ブチヒゲカメムシ成4幼1)
5年 7月12日	行田市前谷	26	51	44	21	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	143	74	畦畔、メヒシバ(70cm)、クローバー主体
5年 7月10日	加須市妻倉	0	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2	2	14	9	畦畔、イタリアンライグラス(45cm)主体、その他(ムラサキシラホシカメムシ4)	
5年 7月10日	加須市大越	0	13	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	22	34	畦畔、メヒシバ(50cm)主体、オヒシバ(40cm)
5年 7月14日	幸手市神扇	5	1	14	7	0	0	8	1	0	0	0	3	0	1	40	75	農道脇水路法面、その他(アカヒメヘリカメムシ1)
5年 7月14日	春日部市樋籠	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	畦畔、イネ科雑草、クローバー
5年 7月14日	吉川市中井	7	19	0	0	0	0	6	3	0	0	0	0	1	1	37	30	畦畔、メヒシバ主体、その他(アカヒメヘリカメムシ幼1、ヒゲナガカメムシ成1)
合計	調査地点数:18	336	291	175	160	0	0	26	42	20	8	0	4	8	20	1,090	439	発生地点率 18/18地点 100%
平均	1地点あたり頭数	18.7	16.2	9.7	8.9	0.0	0.0	1.4	2.3	1.1	0.4	0.0	0.2	0.4	1.1	60.6	25.8	

過去のデータ

調査年月日	調査地点/種類	イネホソミドリカスミカメ*		アカスジカスミカメ		クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ		トゲシラホシカメムシ		その他		合計 頭	発生 地点 率 %	備考 (調査地点のうち斑点米カメムシの発生地点数)
		幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫			
25年 7月上中旬	20調査地点	310	507	38	238	0	0	2	43	1	1	0	0	0	8	1,148	95.0%	発生地点 19/20地点
	1地点あたり平均	15.5	25.4	1.9	11.9	0.0	0.0	0.1	2.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4	57.4		平成25年7月19日に、平成25年度病害虫発生予察注意報第3号「イネの斑点米カメムシ類」を発表
26年 7月上中旬	18調査地点	304	343	107	37	0	0	2	13	1	2	0	1	1	9	820	94.4%	発生地点 17/18地点
	1地点あたり平均	16.9	19.1	5.9	2.1	0.0	0.0	0.1	0.7	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.5	45.6		平成26年6月30日に、平成26年度病害虫発生予察注意報第4号「斑点米カメムシ類」を発表
27年 7月上中旬	18調査地点	43	135	3	12	0	0	0	11	10	2	0	0	0	9	225	77.8%	発生地点 14/18地点
	1地点あたり平均	2.4	7.5	0.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	12.5		-
28年 7月上中旬	15調査地点	8	32	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	44	73.3%	発生地点 11/15地点
	1地点あたり平均	0.5	2.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9		-
29年 7月上中旬	22調査地点	17	64	0	0	0	0	2	6	0	0	0	1	9	1	100	77.2%	発生地点 17/22地点
	1地点あたり平均	0.8	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	4.5		平成29年7月3日に、平成29年度病害虫発生予察注意報第1号「斑点米カメムシ類(特に、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)」を発表
30年 7月上中旬	17調査地点	31	97	1	12	0	1	0	4	0	0	0	2	0	0	148	58.8%	発生地点 10/17地点
	1地点あたり平均	1.8	5.7	0.1	0.7	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	8.7		-
元年 7月上中旬 (令和)	17調査地点	200	210	0	1	1	0	19	10	1	3	0	0	0	0	445	82.4%	発生地点 14/17地点
	1地点あたり平均	11.8	12.4	0.0	0.1	0.1	0.0	1.1	0.6	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	26.2		-
2年 7月上中旬 (令和)	17調査地点	52	94	9	14	0	11	1	13	0	1	0	1	0	14	210	100.0%	発生地点 17/17地点
	1地点あたり平均	3.1	5.5	0.5	0.8	0.0	0.6	0.1	0.8	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.8	12.4		-
3年 7月上中旬 (令和)	17調査地点	21	87	0	12	0	2	3	27	0	1	0	1	0	0	154	100.0%	発生地点 17/17地点
	1地点あたり平均	1.2	5.1	0.0	0.7	0.0	0.1	0.2	1.6	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	9.1		-
4年 7月上中旬 (令和)	17調査地点	107	240	30	41	0	0	1	13	0	1	1	1	2	2	439	88.2%	発生地点 15/17地点
	1地点あたり平均	6.3	14.1	1.8	2.4	0.0	0.0	0.1	0.8	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	25.8		-
平年	1地点あたり平均	6.0	10.0	1.0	1.9	0.0	0.1	0.2	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	20.5	84.7%	

(シ) ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果(1月)

病害虫調査データ

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果

令和6年1月15日
埼玉県病害虫防除所

病害虫防除所では、イネ縞葉枯病の発生量を予測するため、ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を調査しています。

令和元年度以降保毒虫率が減少傾向にあり、今年度の調査結果は、保毒虫率が過去10年で最も低くなっています。ただし、コシヒカリ、キヌヒカリ等のイネ縞葉枯病感受性品種作付ほ場の周辺では保毒虫率がやや高い傾向が見られました。イネ縞葉枯病は移植後から幼穂形成期までに感染します。感受性品種では、育苗箱施薬剤等を用いた感染前の早めの予防対策を実施してください。

1 調査方法

令和5年11月に、県内25か所の水田周辺でヒメトビウンカ幼虫(写真1)をサンプリング(100頭程度/1か所)し、ELISA法(図1)により保毒虫を判定し、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を算出した。



写真1 ヒメトビウンカ幼虫
(体長2mm)

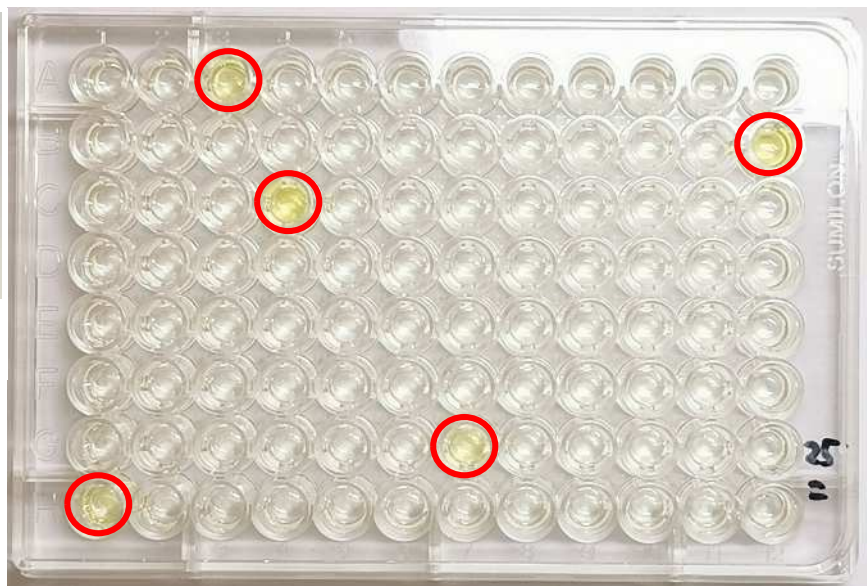


図1 ELISA法による保毒虫判定
ウイルス有り：黄色(○内)、ウイルス無し：無色

2 調査結果の概要

縞葉枯病抵抗性品種の作付比率が縞葉枯病感受性品種の作付比率を上回った令和元年度以降、ヒメトビウンカ幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は減少傾向にあり、令和5年度は平均で2.4%と過去10年で最も低くなった(図2)。

昨年度は縞葉枯病感受性品種であるコシヒカリの早期栽培地域の保毒虫率が低い傾向だったが、令和5年度はコシヒカリ早期栽培地域を主体に5月中旬までの移植主体の地域で保毒虫率が若干高い傾向が見られた。ただし、5月下旬以降の移植地域でもキヌヒカリ等の縞葉枯病感受性品種作付ほ場の周辺では保毒虫率が高いこともあり、作期による統計的な有意差はなかった(表1)。

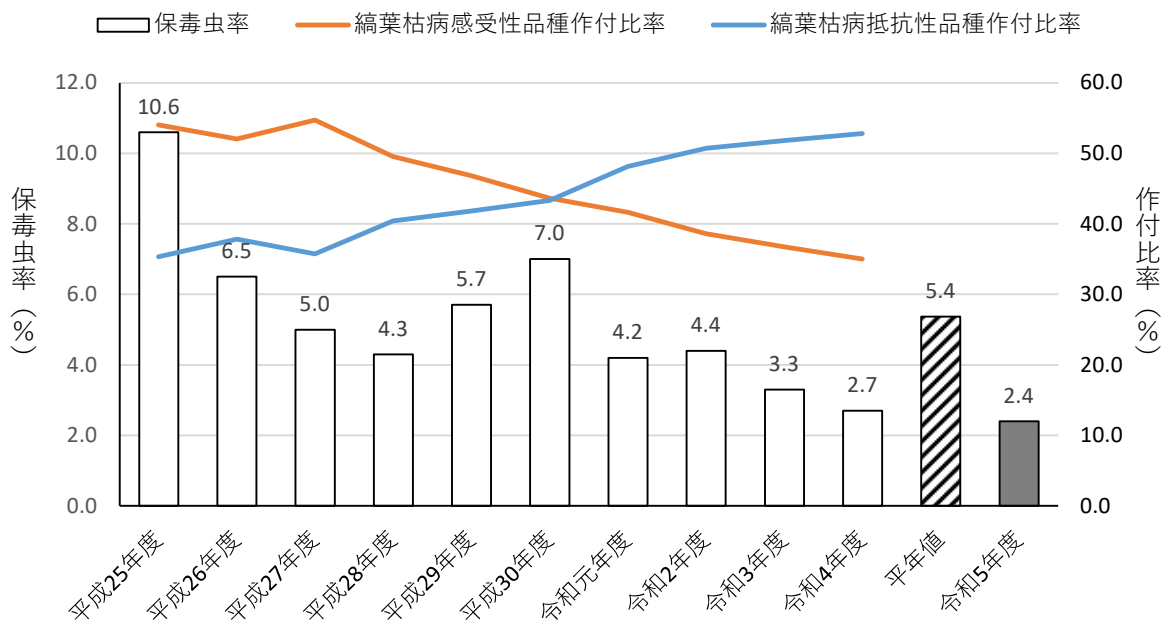


図2 ヒメトビウカのイネ縹葉枯病ウイルス保毒虫率の推移

表1 ヒメトビウカのイネ縹葉枯病ウイルス保毒虫率(令和5年度)

5月中旬までの移植地域		5月下旬以降の移植地域		
採集地点	保毒虫率(%)	採集地点	保毒虫率(%)	
さいたま市桜区昭和	3.1	坂戸市紺屋	1.0	
鴻巣市屈巢	1.0	小川町上横田	5.2	
富士見市南畑	2.1	川島町上八ツ林	1.0	
川越市古谷本郷	5.2	吉見町久保田	3.1	
熊谷市中曾根	2.1	嵐山町吉田	3.1	
加須市大越	1.0	秩父市小柱	0.0	
加須市柏戸	3.1	本庄市児玉町吉田林	0.0	
春日部市八丁目	4.2	美里町阿那志	4.2	
幸手市神扇	4.2	上里町長浜	2.1	
白岡市野牛	1.0	熊谷市中恩田	1.0	
		熊谷市御正新田	8.3	
		行田市前谷	1.0	
		行田市下池守	0.0	
		加須市下谷	1.0	
		久喜市菖蒲町台	2.1	
地域平均(10地点)	2.7	地域平均(15地点)	2.2	NS
採集地点数	25	平均保毒虫率(%)	2.4	

(ス) 農業技術研究センター 県予察ほ場 (玉井試験場) 調査結果 (6~9月)

a ほ場内見取り調査(%)

(a) 5月中旬移植「コシヒカリ」

調査月		6月			7月			8月			9月		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
葉いもち	発病株率%	0.3	0.0	0.0	2.0	1.0	3.3	0.7	0.7	0.1	-	-	-
穂いもち	発病株率%	-	-	-	-	-	-	2.0	0.0	1.7	0.7	14.4	-
紋枯病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.2	4.7	0.7	4.9	6.7	15.7	23.7
ばか苗病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
縞葉枯病	発病株率%	0.0	1.7	1.5	20.0	7.0	24.2	4.7	22.3	57.6	4.7	22.3	59.8
コマイチュウ (第1世代幼虫)	食害株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イチモンジセリ	食害株率%	0.3	0.7	2.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	-
イネアオムシ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-
コブノメイガ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-
イソメモグリハエ	食害株率%	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネミズゾウムシ	食害株率%	0.7	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イトナカイ	食害株率%	0.0	0.0	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

(b) 5月中旬移植「彩のかがやき」

調査月		6月			7月			8月			9月		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
葉いもち	発病株率%	0.0	0.0	0.0	2.0	1.3	1.1	0.0	0.3	0.3	-	-	-
穂いもち	発病株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	1.3	18.8	12.3
紋枯病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	6.7	9.0	11.1	10.0	23.3	25.8	29.3	75.3	38.3
ばか苗病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
縞葉枯病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.4
コマイチュウ (第1世代幼虫)	食害株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イチモンジセリ	食害株率%	2.7	0.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
イネアオムシ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.1	-	-	-
コブノメイガ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
イソメモグリハエ	食害株率%	1.3	1.7	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネミズゾウムシ	食害株率%	1.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イトナカイ	食害株率%	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサキリ類	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

(c) 6月下旬移植「キヌヒカリ」

調査月		6月			7月			8月			9月		
		2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年	2023年	2022年	平年
葉いもち	発病株率%	-	-	-	2.7	0.0	4.4	0.0	3.7	7.6	-	-	-
穂いもち	発病株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.7	47.8	27.1
紋枯病	発病株率%	-	-	-	0.0	0.0	0.0	6.0	0.3	1.7	6.0	34.7	31.5
ばか苗病	発病株率%	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
縞葉枯病	発病株率%	-	-	-	0.0	2.3	1.8	5.3	7.3	22.0	5.3	20.3	27.5
コマイチュウ (第1世代幼虫)	食害株率%	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イチモンジセリ	食害株率%	-	-	-	0.0	0.3	0.4	0.7	29.3	7.6	0.0	0.0	0.1
イネアオムシ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.2	-	-	-
コブノメイガ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	1.8
イソメモグリハエ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネミズゾウムシ	食害株率%	-	-	-	0.0	0.0	4.9	-	-	-	-	-	-
イトナカイ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサキリ類	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

b すくい取り調査(20回振)でのウンカ・ヨコバイ類等の捕獲数

(a) 5月中旬移植「コシヒカリ」

調査月	6月				7月				8月				9月			
	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)
ヒメトビウンカ	4.3	10.7	15.0	33.0	13.0	8.7	21.7	71.7	211.0	44.5	255.5	484.5	50.7	146.7	197.4	418.4
ツマグロヨコバイ	3.3	8.7	12.0	3.6	12.7	0.3	13.0	10.6	53.0	49.0	102.0	169.2	590.0	1,024.0	1,614.0	628.8
セジロウンカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.5	0.5	1.0	5.1	0.0	0.0	0.0	10.6
トビイロウンカ	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アカヒゲホリトリカスミカメ			11.7	4.6			0.0	0.2			5.5	0.6			0.0	0.0

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

(b) 5月中旬移植「彩のかがやき」

調査月	6月				7月				8月				9月			
	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)
ヒメトビウンカ	2.3	35.7	38.0	44.0	8.7	26.0	34.7	73.4	53.0	25.5	78.5	470.4	106.7	81.3	188.0	451.4
ツマグロヨコバイ	3.0	10.0	13.0	2.6	7.7	0.3	8.0	3.3	14.0	0.5	71.3	18.5	514.7	996.0	1,510.7	323.9
セジロウンカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	1.2	1.5	1.0	2.5	5.3	0.0	0.0	0.0	13.3
トビイロウンカ	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
アカヒゲホリトリカスミカメ			15.7	5.1			0.0	0.2			0.5	0.5			0.0	0.2

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

(c) 6月下旬移植「キヌヒカリ」

調査月	6月				7月				8月				9月			
	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)
ヒメトビウンカ	-	-	-	-	12.0	150.7	162.7	37.4	26.5	9.5	36.0	332.0	96.0	70.0	166.0	542.0
ツマグロヨコバイ	-	-	-	-	18.0	4.3	22.3	6.1	52.5	49.0	101.5	83.0	1,100.0	4,418.0	3,210.7	2,608.0
セジロウンカ	-	-	-	-	0.3	0.0	0.3	0.5	3.0	0.5	3.5	19.5	0.0	0.0	0.0	76.6
トビイロウンカ	-	-	-	-			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
アカヒゲホリトリカスミカメ	-	-	-	-			17.7	3.8			0.5	0.9			0.0	0.3

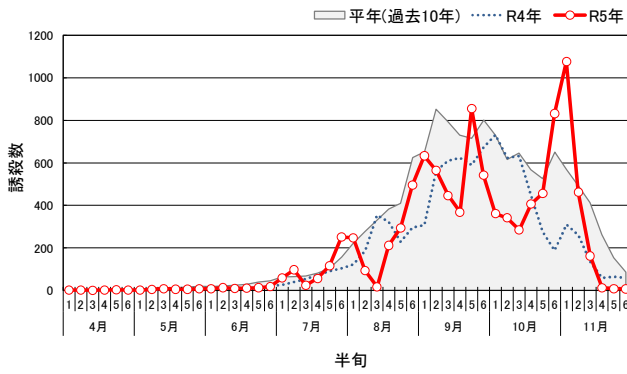
-は未調査

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

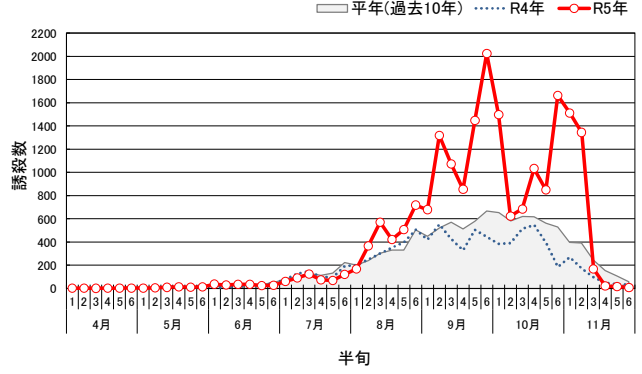
イ 野菜等

(ア) ハスモンヨトウのフェロモントラップ調査 (4～11月)

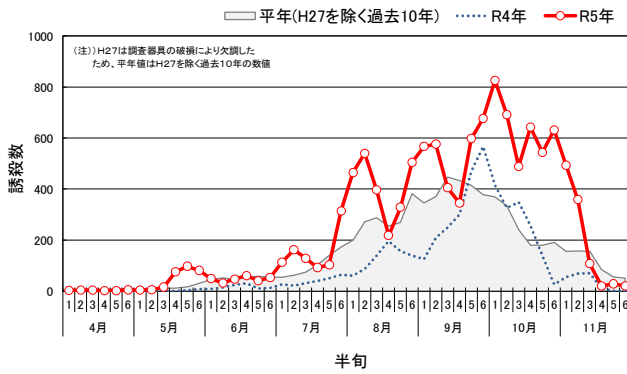
対象作物:大豆(7月以降) 調査地点:熊谷市樋春



対象作物:ブロッコリー 調査地点:深谷市山河

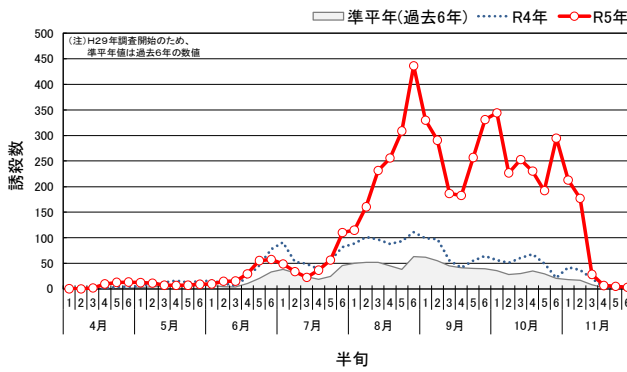


対象作物:いちご、ハウス花き 調査地点:久喜市菖蒲町小林

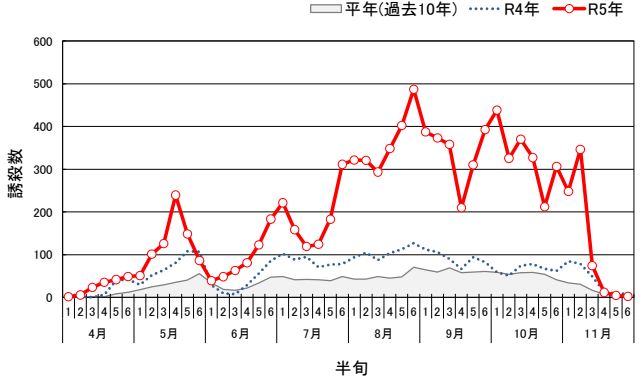


(イ) オオタバコガのフェロモントラップ調査 (4～11月)

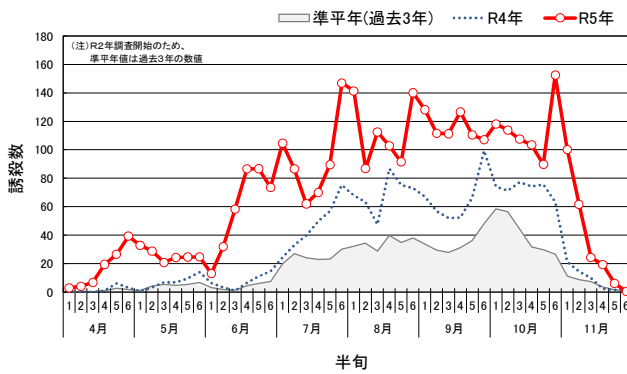
対象作物:露地なす 調査地点:本庄市児玉町小平



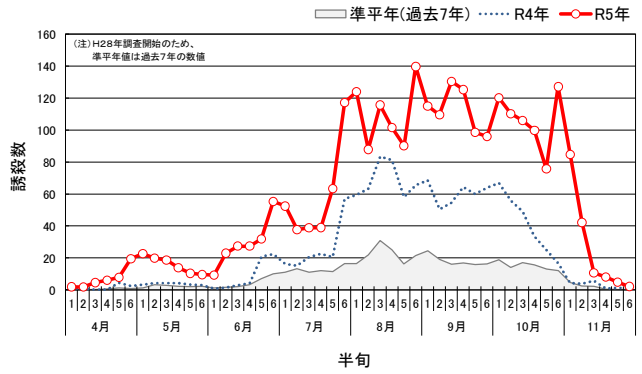
対象作物:露地野菜 調査地点:深谷市山河



対象作物:露地なす 調査地点:越谷市中島

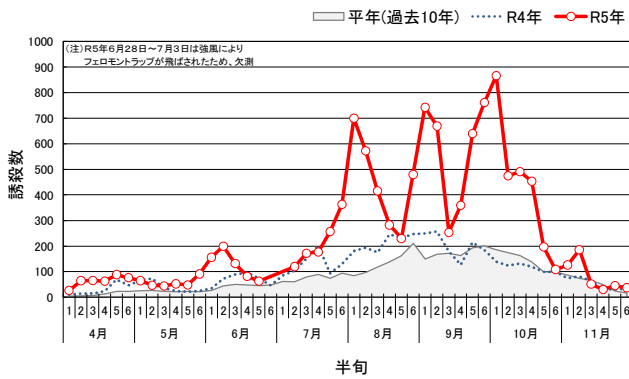


対象作物:露地なす 調査地点:杉戸町大塚

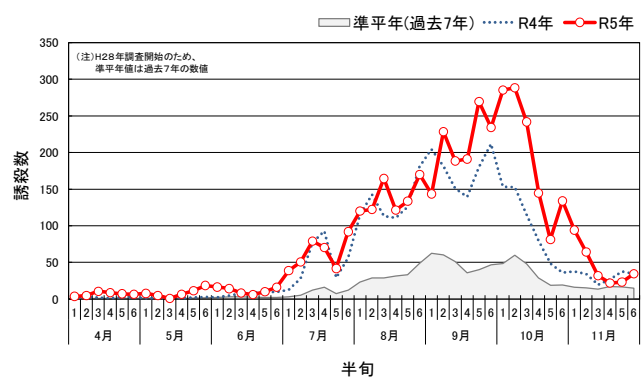


(ウ) シロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査 (4～11月)

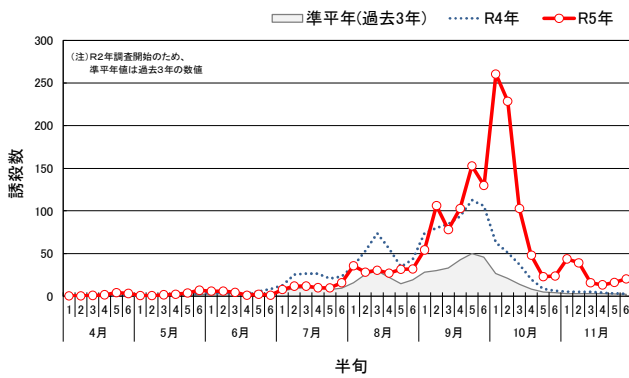
対象作物:ねぎ 調査地点:深谷市新成



対象作物:ねぎ 調査地点:越谷市中島



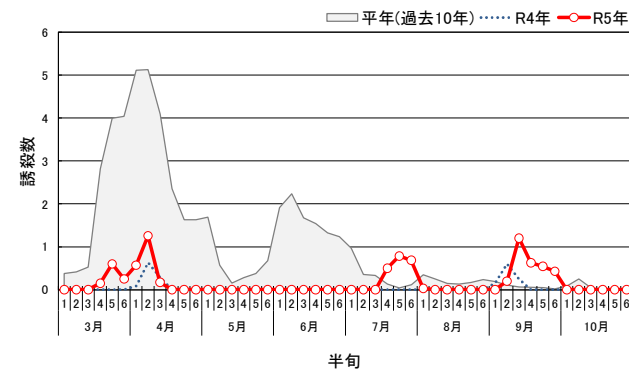
対象作物:ねぎ 調査地点:杉戸町大塚



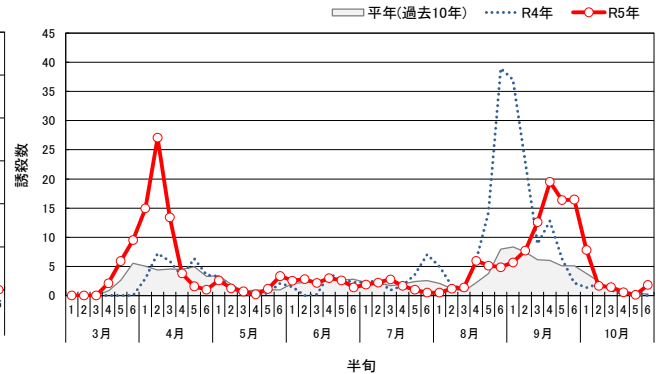
ウ 果樹

(ア) ナシヒメシンクイのフェロモントラップ調査 (3～10月)

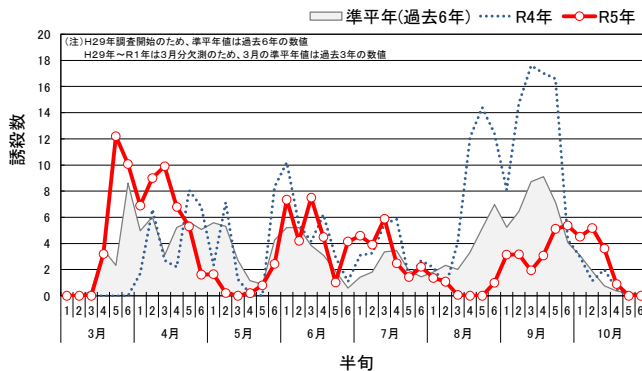
対象作物:なし 調査地点:鴻巣市常光



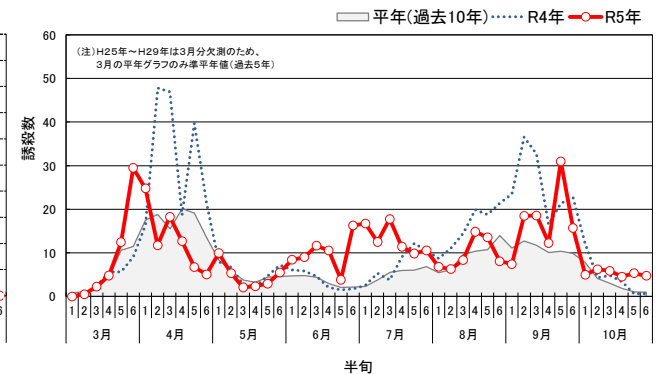
対象作物:なし 調査地点:上里町長浜



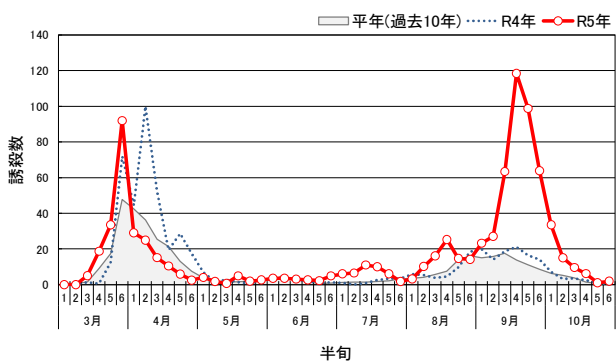
対象作物:なし 調査地点:久喜試験場



対象作物:なし 調査地点:春日部市内牧



対象作物:なし 調査地点:加須市鴻基

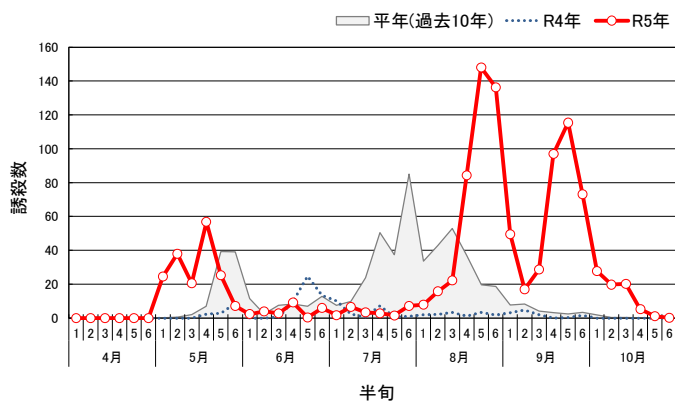


(イ) 果樹カメムシの予察灯調査 (4~10月)

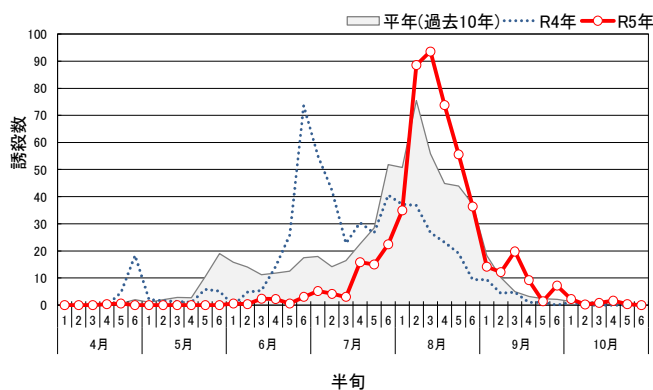
主要な果樹カメムシ (4種*合計)

※チャバナエアカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアアカメムシ、アオクサカメムシ

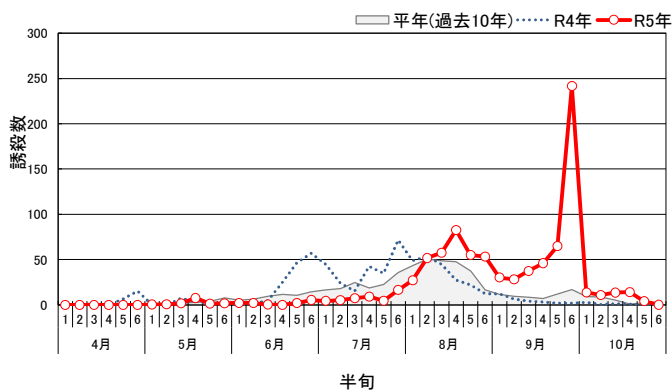
対象作物:なし 調査地点:上里町長浜



対象作物:なし 調査地点:春日部市内牧



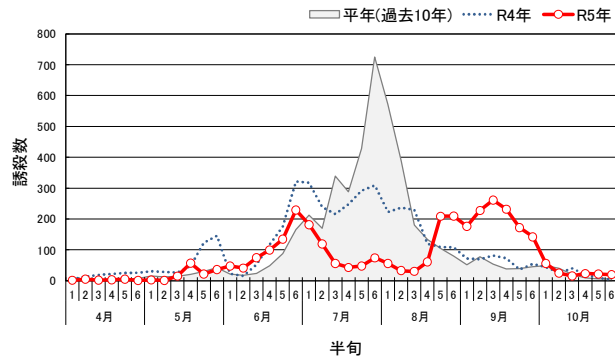
対象作物:なし 調査地点:久喜試験場



(ウ) 果樹カメムシのフェロモントラップ調査 (4~10月)

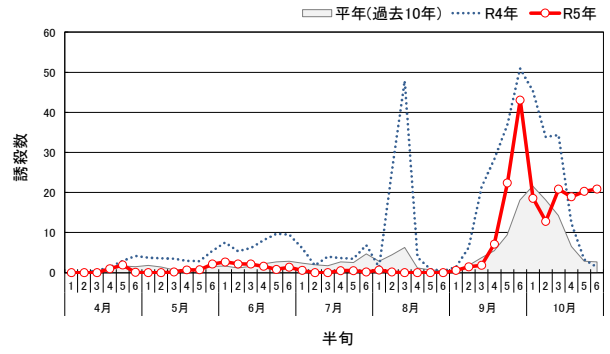
a チャバネアオカメムシ

対象作物:ヒノキ 調査地点:寄居町鉢形



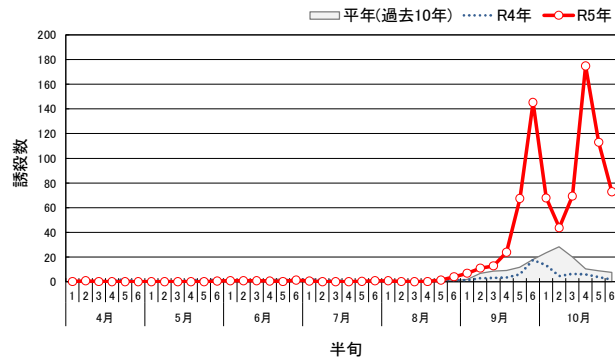
b クサギカメムシ

対象作物:ヒノキ 調査地点:寄居町鉢形



c ツヤアオカメムシ

対象作物:ヒノキ 調査地点:寄居町鉢形



果樹カメムシ類の越冬密度調査結果について

令和6年3月15日
埼玉県病害虫防除所

ナシ、モモ、カンキツなどの果樹を加害する果樹カメムシ類の発生量の予測を目的として、チャバネアオカメムシなどの越冬密度調査を行いました。

調査の結果、チャバネアオカメムシ（越冬成虫）の捕獲数は平成26年以降の11年間で最も多く、確認地点率は2番目に高いことが明らかとなりました。

果樹カメムシ類は、地域によって越冬密度が異なり、スギ・ヒノキが近くにある山間部等に多く飛来することがあります。

また、気象条件によっては発生時期が早まることがあるため、今後、病害虫防除所が発表する情報（予察灯、フェロモントラップでの誘殺数）を参照し、果樹園等への初期飛来に注意して適切に防除してください。

1 調査時期

令和6年1月31日～2月15日

2 調査地点

8地点（表参照）

3 調査方法

- (1) 雑木林の南斜面から、1地点につき3か所（各1㎡）の落葉を採取。
- (2) 採取した落葉をビニル袋に詰めて口を閉じた状態で温室内（25℃加温）に2週間以上静置し体色が緑化したチャバネアオカメムシ等の成虫数を調査。

4 結果

1地点あたりの平均越冬虫数は4.75頭で、過去10年の平均虫数0.74頭に比べ、6.4倍に達し、平成26年以降最多となっています。

確認地点率は75%で、平年地点率38%に比べ高く、平成26年以降2番目に高い結果になりました。（表、図1）

表 果樹カメムシ類の越冬成虫数

単位:頭

採取地点	チャバネアオカメムシ	その他のカメムシ
東松山市松山	1	
北本市荒井	0	
寄居町鉢形	9	
神川町新里	0	
加須市上種足	3	イネカメムシ2、ツヤアオカメムシ1
蓮田市高虫	5	
春日部市内牧	18	
久喜市清久	2	イネカメムシ8、イチモンジカメムシ2
計	38	—

平均越冬成虫数 (1地点あたり) 4.75 (過去10年の平均虫数 0.74)

確認地点率 75% (過去10年の平均地点率 38%)

注) イネカメムシは果樹を加害しませんが、近年、水稻での被害が増加しているため参考として掲載しています。
また、イチモンジカメムシはダイズなどマメ科作物の害虫です。

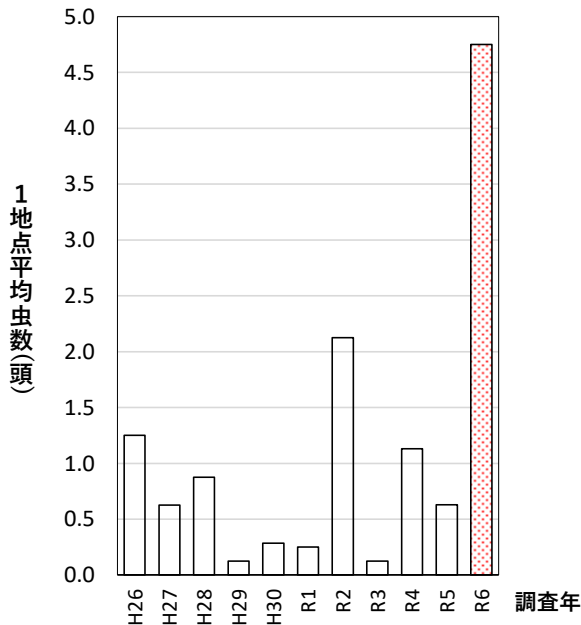


図1 チャバネアオカメムシの越冬成虫調査結果

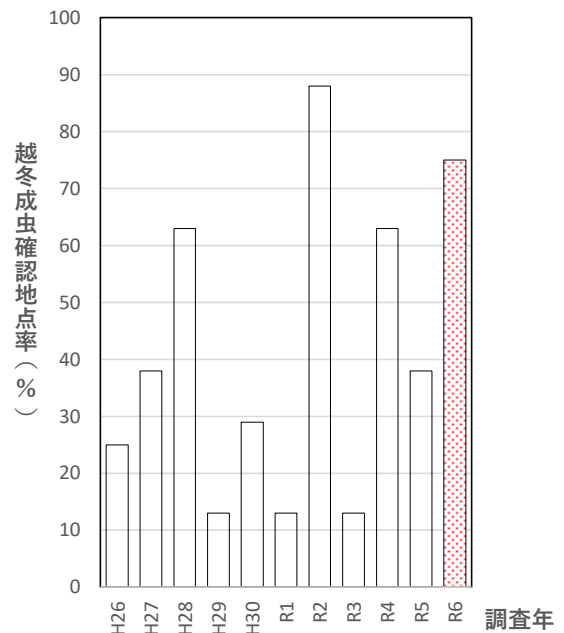


図2 越冬成虫確認地点率

○生態と被害

・チャバネアオカメムシ

体長 10～12mm で光沢のある緑色で、前翅は紫がかった茶色をしています(図3)。広食性で、4月から夏にかけてはクワ、サクラ、ヒイラギ、キリなどに、夏以降はヒノキ、スギ、キリなどに寄生します。ナシ、モモ、ウメ等多くの果樹を加害しますが、幼虫はスギやヒノキの球果を餌として発育するため、本種は果樹園では増殖しません。



図3 チャバネアオカメムシの成虫(体長10～12ミリメートル)

・被害(果樹カメムシ類共通)

果樹園に飛来し、果実を吸汁します。加害を受けると、吸汁部がくぼんで奇形果になります。収穫直前の被害では、くぼみの程度は軽くなりますが、吸汁部周辺の果肉は白くスポンジ状となり、商品価値が損なわれます(図4)。



図4 被害を受けたナシの果実

○来年度以降注意する点

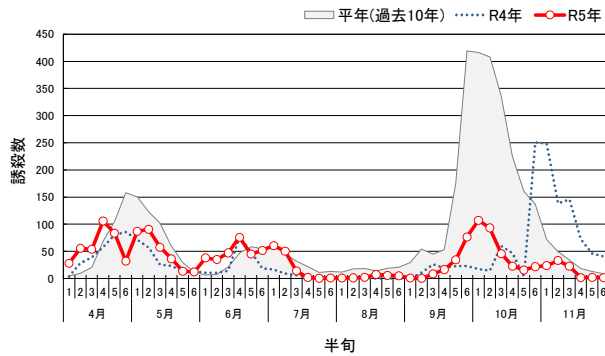
埼玉県において越冬世代成虫が直接加害する可能性がある樹種はウメ、モモ、スモモ等が考えられます。周辺地域のヒノキやスギなどの球果の量、気象条件、地域により果樹園に飛来する量は異なりますが、県全域的に越冬成虫数が多いため多発する懸念があります。

また、ナシでは越冬世代成虫が直接加害することはほとんどありませんが、越冬世代が多いとそれに伴い、ナシを加害する第1世代以降の個体数も増加する傾向があります。病害虫防除所が4月中旬以降に公表する予察灯、フェロモントラップ等の調査データを確認し、適期防除を行いましょ。

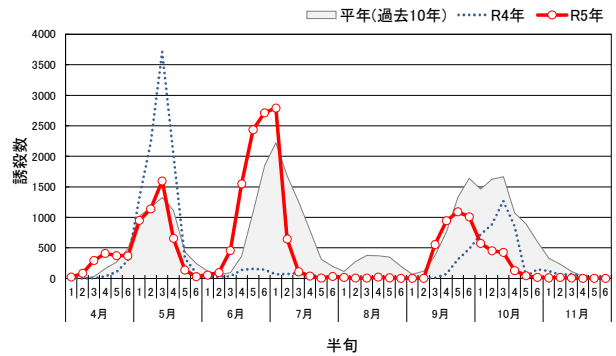
エ 茶

(ア) チャハマキのフェロモントラップ調査 (4～11月)

対象作物: 茶 調査地点: 所沢市下富

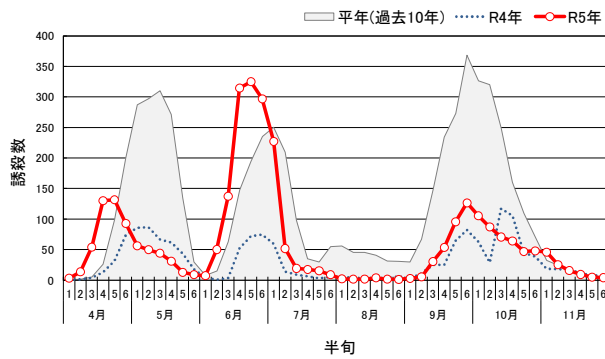


対象作物: 茶 調査地点: 入間市根岸

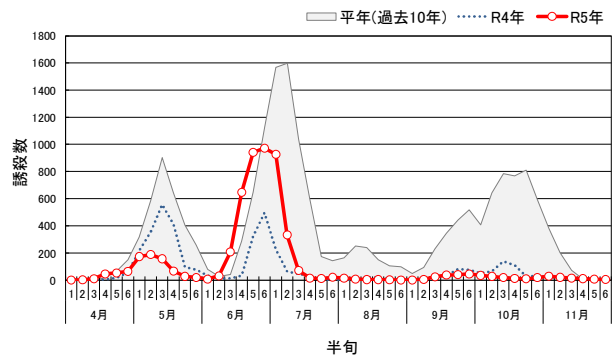


(イ) チャノコカクモンハマキのフェロモントラップ調査 (4～11月)

対象作物: 茶 調査地点: 所沢市下富

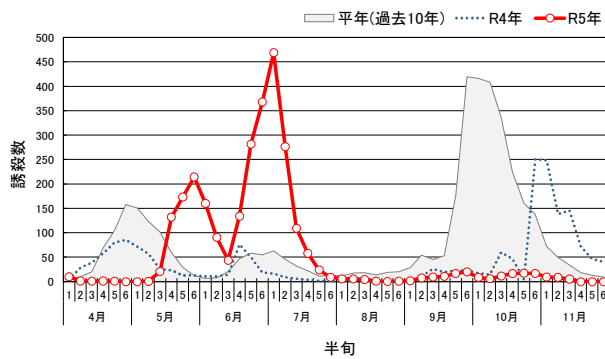


対象作物: 茶 調査地点: 入間市根岸

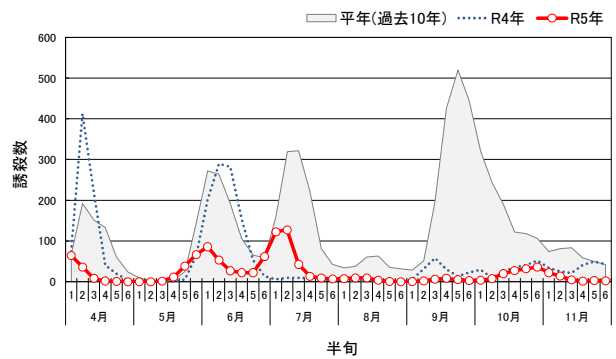


(ウ) チャノホソガのフェロモントラップ調査 (4～11月)

対象作物: 茶 調査地点: 所沢市下富

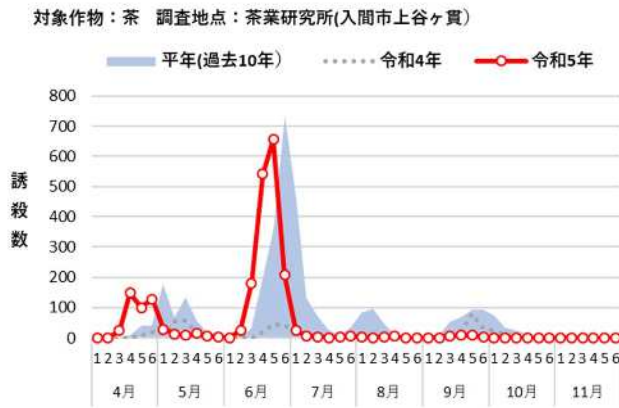


対象作物: 茶 調査地点: 入間市根岸

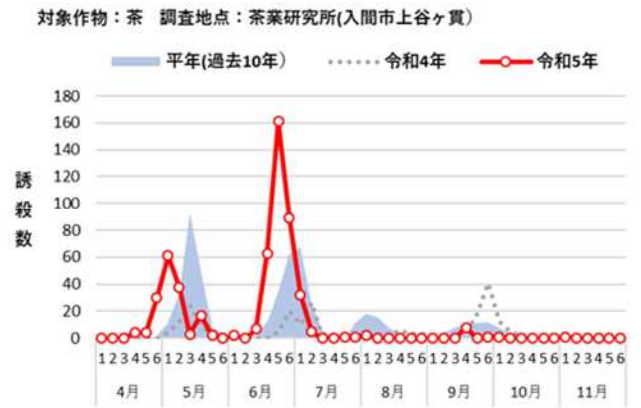


(エ) 茶業研究所 県予察ほ場調査結果 (4~3月)

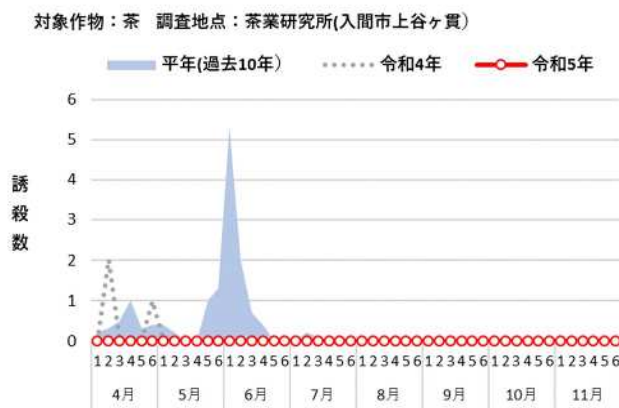
a 予察灯へのチャハマキの誘殺数



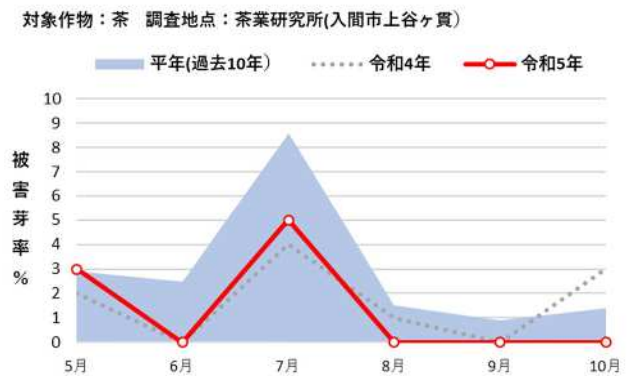
b 予察灯へのチャノコカクモンハマキの誘殺数



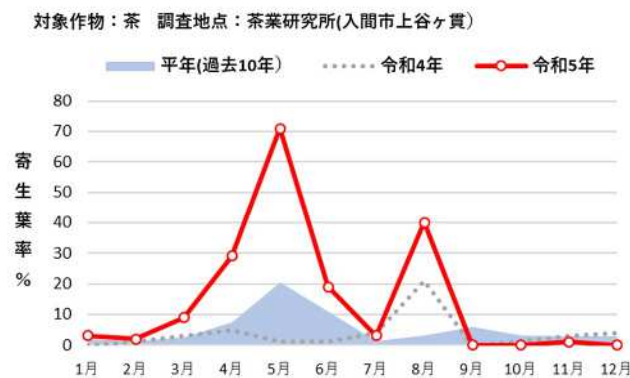
c 予察灯へのチャノホソガの誘殺数



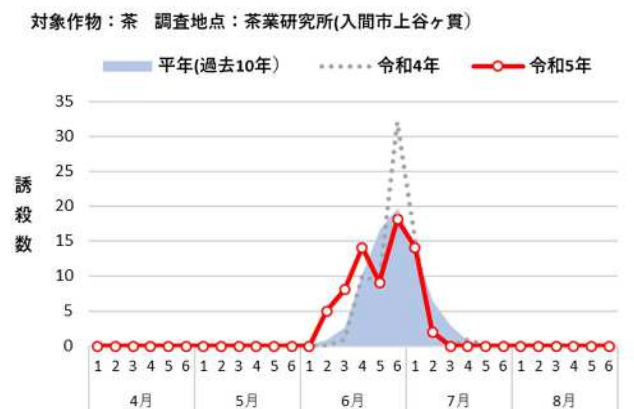
d ツマグロアオカスミカメ被害芽率



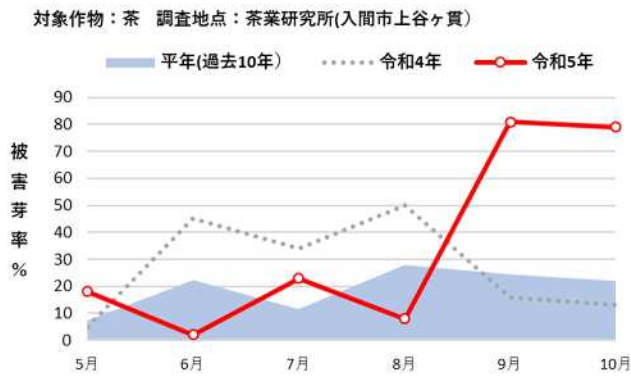
e カンザワハダニの発生推移



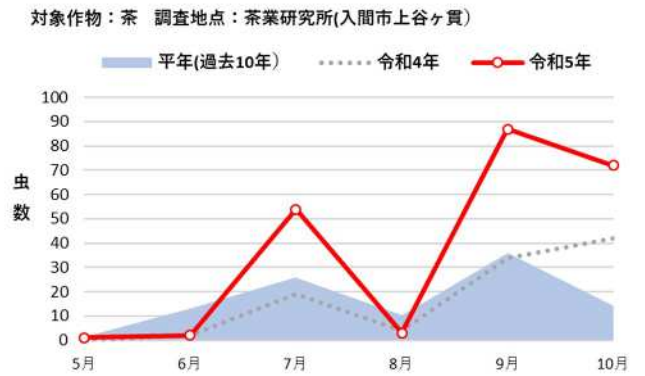
f 予察灯へのナガチャコガネ成虫の発生推移



g チャノキイロアザミウマの発生推移



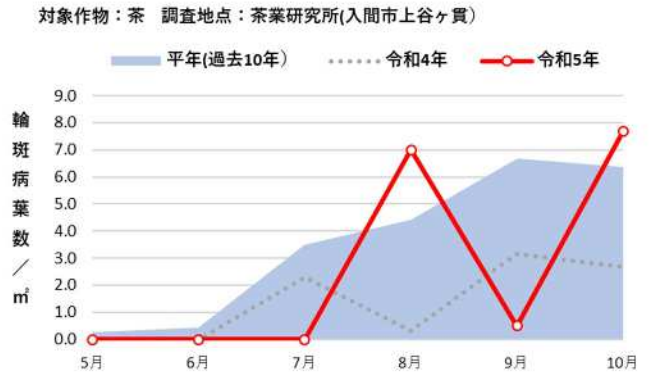
h チャノミドリヒメヨコバイの発生推移



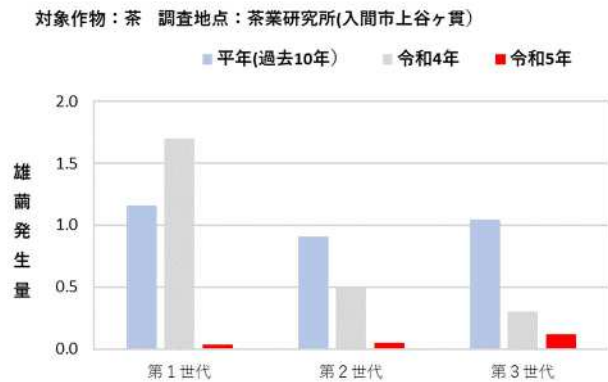
i 炭疽病の発生推移



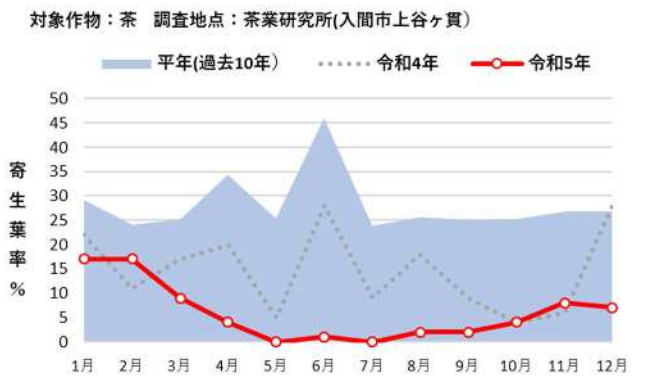
j 輪斑病の発生推移



k クワシロカイガラムシの発生推移
(30株あたりの平均)



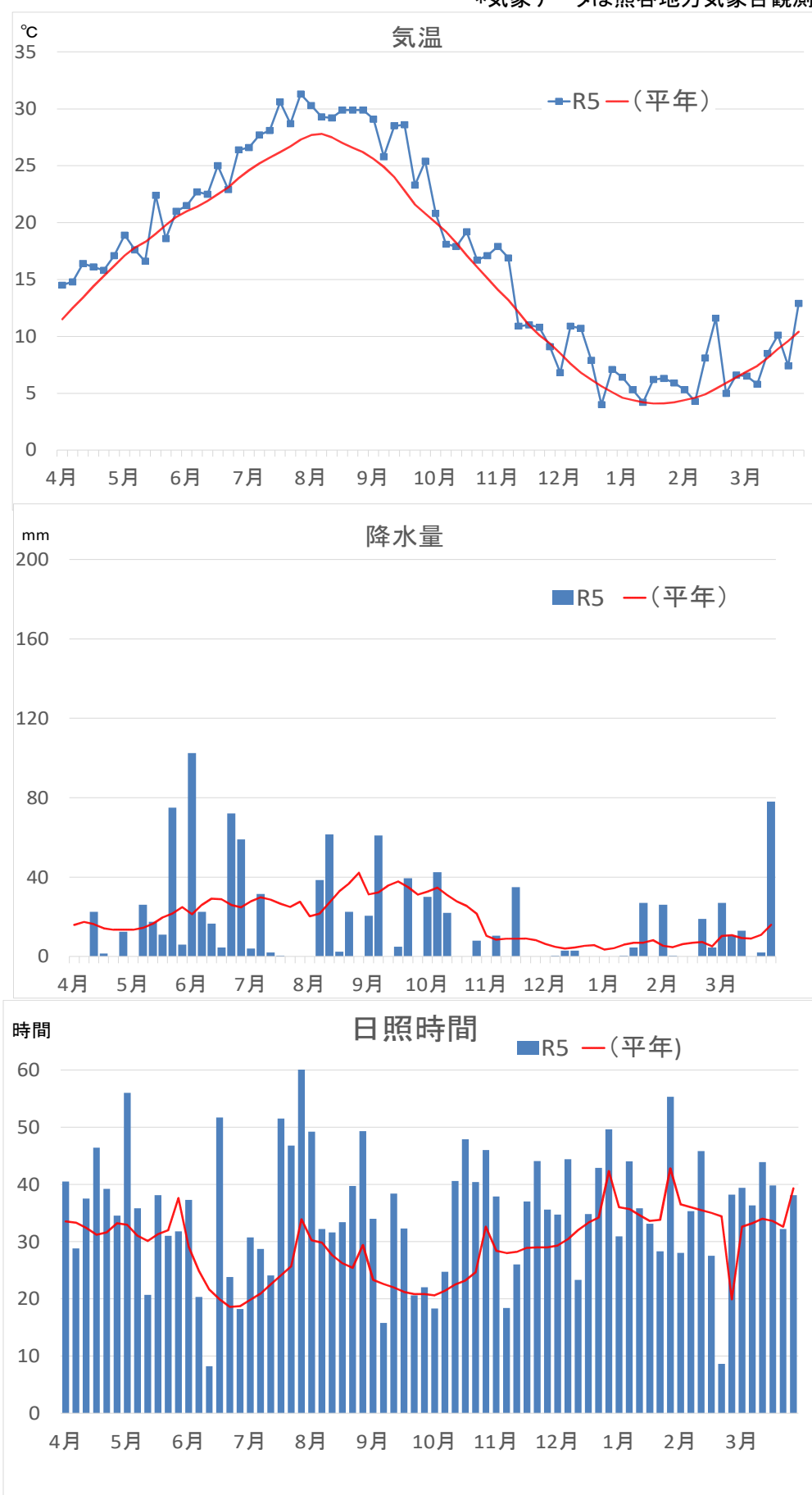
l チャトゲコナジラミの発生推移



(3) その他

ア 令和5年度熊谷の気象データ

*気象データは熊谷地方気象台観測値を使用



イ 無人ヘリコプターによる防除実績

年次別防除実績の推移（平成24年までは【その他：肥料、除草剤など】を除く）

（資料提供：一般社団法人埼玉県植物防疫協会）

（単位：ha）

	年度	平成 20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
麦	市町村数	17	19	16	17	17	17	16	17
	実施面積	2064.5	2620.6	2574.1	2472.0	2511.1	2722.2	2825.5	2821.0
水稲	市町村数	9	11	11	10	8	10	15	13
	実施面積	1714.2	2133.9	2409.3	2372.1	2513.6	3317.0	3030.3	3549.1
大豆	市町村数	14	13	10	7	5	6	3	6
	実施面積	407.0	395.0	304.9	272.9	250.0	251.5	201.5	270.0
その他	市町村数	—	—	—	—	—	3	8	10
	実施面積	—	—	—	—	—	20.6	163.1	117.3
計	市町村数	40	43	37	34	30	36	41	46
	実施面積	4185.7	5149.5	5288.3	5117.0	5274.7	6311.3	6220.4	6754.4

（単位：ha）

	年度	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
麦	市町村数	19	17	14	17	17	14	15	15
	実施面積	3174.3	2977.8	3194.6	3057.8	3275.2	3062.8	2976.8	3203.1
水稲	市町村数	14	13	16	20	13	17	15	15
	実施面積	3541.4	3561.8	3913.5	3826.7	3958.8	3721.8	3588.2	3555.7
大豆	市町村数	7	5	7	6	4	5	4	3
	実施面積	284.3	243.7	264.2	163.4	143.0	204.2	176.0	179.7
その他	市町村数	8	8	6	10	12	9	6	4
	実施面積	224.3	79.6	223.4	198.7	317.0	120.7	67.7	69.0
計	市町村数	48	43	43	26	23	25	23	23
	実施面積	7224.3	6952.9	7595.7	7246.6	7694.0	7109.5	6808.7	7007.5

*市町村数の計は平成19年～30年は「のべ市町村数」、令和元年以降は「実市町村数」とする。

ゴルフ場の害虫防除のための散布は、実施面積から除く。

平成22年実績として、甘藷1地区1.1haの実績がある。（別途）

「その他（ジャガイモ、肥料、除草剤、種子）」は、平成25年から記載。

ウ 過去の病害虫発生予察警報、注意報、特殊報発表状況

(ア) 警報

月 日	内 容
昭和 58 年 7 月 13 日	イネ縞葉枯病
昭和 59 年 6 月 22 日	イネ縞葉枯病
平成 5 年 8 月 20 日	イネいもち病 (穂いもち病)

(イ) 注意報及び特殊報

年	月 日	注 意 報	月 日	特 殊 報
昭和 54	5. 29	イネ縞葉枯病、黒すじ萎縮病	7. 20	キュウリ黄化病、キクのサビダニ、 チューリップのサビダニ イチゴ炭そ病
	7. 10	ナシのハダニ類		
	8. 8	ダイズ、野菜のハスモンヨトウ	9. 11	
55	4. 30	チャのサンカクハマキ		
	8. 1	イネいもち病 (穂いもち)		
	9. 9	キュウリ斑点細菌病、べと病、ナス 褐色腐敗病、トマト疫病、ニンジン 黒葉枯病、ネギ黒斑病、さび病、露 地野菜軟腐病		
57	8. 13	イネいもち病 (穂いもち)	3. 4	イチゴ疫病、クリのヨシノコブガ、 シクラメンホコリダニ
			5. 28	イネミズゾウムシ
			6. 1	コムギ条斑病
58	5. 23	イネミズゾウムシ		
	6. 3	イネ縞葉枯病		
59	2. 16	ムギダニ	7. 2	ニンジン斑点細菌病、タマネギ萎黄 病、クワイ茎腐病 シュンギクべと病 キュウリホモプシス根腐病
	4. 13	ムギアカタマバエ	10. 4	
	6. 14	イネ縞葉枯病	12. 21	
60	3. 19	キュウリ、ナス、トマト及びイチゴの 灰色かび病		
	4. 17	ムギアカタマバエ		
	5. 10	イネミズゾウムシ		
	8. 26	ダイコン及びハクサイウイルス病		
	8. 31	セジロウンカ		
61	4. 30	ムギアカタマバエ	1. 17	ニンジン菌核病、ダイコンバーティ シリウム黒点病 チャ輪斑病 ミナミキイロアザミウマ
	5. 12	イネミズゾウムシ	3. 28	
	7. 21	セジロウンカ	7. 9	
	8. 21	ニカメイチュウ第2世代幼虫		
62	5. 7	イネミズゾウムシ	3. 11	レタスビッグベイン病
	5. 11	野菜のアブラムシ類及びウイルス病		
	6. 17	イネ縞葉枯病		
	8. 11	セジロウンカ		
63	5. 10	イネミズゾウムシ		
	8. 19	イネいもち病 (穂いもち)		

年	月 日	注 意 報	月 日	特 殊 報
平成 元	8. 25	イネ白葉枯病	8. 25	イネ白葉枯病
2	5. 8 8. 1	ナシ黒星病 セジロウンカ	5. 8 9. 5	タバココナジラミ ミカンキイロアザミウマ
3	7. 12 8. 7 8. 7	ナシのカメムシ類 ニカメイチュウ第2世代 セジロウンカ	6. 4	カキクダアザミウマ
4	6. 19	ナシ、カンキツ類のカメムシ類	7. 29 12. 8	ヨメナスジハモグリバエ カラココエのさび病(仮称)
5	3. 9 8. 5	チャのカンザワハダニ イネいもち病(葉いもち、穂いもち)	3. 9	マメハモグリバエ
6	6. 17	イネいもち病(葉いもち)	10. 7	トマトサビダニ
7	7. 21	イネいもち病(葉いもち)		
8	8. 6	ナシのカメムシ類	8. 26 9. 19	シロイチモジヨトウ オオタバコガ
9	7. 7 8. 1	ネギ等のシロイチモジヨトウ ナス等のオオタバコガ	6. 23 8. 1	トマト黄化壊疽ウイルス(TSWV) カボチャ台キュウリ立枯病
10	5. 14 6. 11 9. 30	ナシの疫病、黒星病 ナシのカメムシ類 チャのウスミドリメクラガメ		
11	9. 28	ダイズ、野菜のハスモンヨトウ		
12	9. 7	ダイズ、野菜のハスモンヨトウ		
13	6. 11 8. 16	ナシのカメムシ類 イネの斑点米カメムシ類	2. 1	イチジク株枯病
14			1. 23 5. 13 9. 17	トマトハモグリバエ アルファルファタコゾウムシ ルイスハダニ
15	8. 13	イネいもち病(穂いもち)	2. 10	インパチェンスえそ斑紋ウイルス (INSV)
16			6. 10	IYSV(Iris yellow spot virus) によるトルコギキョウ及びユーチャ リスの病害
17	6. 9 8. 4	キュウリ黄化えそ病(MYSV) 水稻のフタオビコヤガ	2. 17 5. 19 9. 16	トマト黄化葉巻病(TYLCV) キュウリ黄化えそ病(MYSV) クワシロカイガラムシ
18	6. 2 6. 27 7. 24 8. 2 11. 2	ナシのカメムシ類 イネいもち病(葉いもち、穂いもち) イネいもち病(葉いもち、穂いもち) フタオビコヤガ(イネアオムシ) トマト黄化葉巻病(TYLCV)	4. 11 10. 10 11. 15 12. 5	タバココナジラミバイオタイプQ フタスジヒメハムシによるダイズ被 害 ユリのイチゴセンチュウ クリバネアザミウマ(ミョウガ)
19	3. 27 7. 26 8. 13 9. 20	チャのカンザワハダニ イネいもち病(葉いもち、穂いもち) フタオビコヤガ(イネアオムシ) ハスモンヨトウ	3. 9 7. 26 8. 30 10. 4 11. 5	クロスジコバネアブラムシ(ミョウ ガ) IYSV(Iris yellow spot virus)によ るネギの病害 カキノヒメヨコバイ(カキ) アワダチソウグンバイ(キク科) プラタナスグンバイ(プラタナス)

年	月 日	注 意 報	月 日	特 殊 報
20	4. 7 5. 1 6. 4 10. 2	チャのカンザワハダニ ナシヒメシンクイ ナシ黒星病 チャハマキ	1. 16 3. 25 10. 30	ツマグロヒョウモン幼虫によるパンジー等の被害 クロトンアザミウマ (モントレイトスギ) キュウリ退緑黄化病 (CCYV:仮称)
21	5. 1 7. 29	ナシのナシヒメシンクイ イネいもち病(葉いもち、穂いもち)	11. 12	チャのミカントゲコナジラミ
22	6. 11 7. 8 8. 27	ナス、スイートコーンなどのオオタバコガ フタオビコヤガ (イネアオムシ) 野菜類、花き類及びダイズのハスモンヨトウ	2. 9 3. 31 7. 23 12. 21 12. 22	ハウレンソウのハコベハナバエ ブロッコリー菌核病 ウメ輪紋ウイルス (plum pox virus) トルコギキョウ葉巻病 トマトすすかび病
23	7. 20 8. 3	斑点米カメムシ類(アカヒゲホミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホリハリカメムシ、クモハリカメムシ) フタオビコヤガ(イネアオムシ)	7. 26 10. 26 12. 19	クロメンガタスズメによるトマト・ナス等の被害 チャノキイロアザミウマによるナシへの寄生と被害 ムギ類黒節病
24	6. 5	ナシのカメムシ類 (チャバネカメムシ、クギカメムシ、ツヤアカメムシ)	12. 6 1. 30	ネギ葉枯病菌による黄色斑紋症状の発生について スモモ斑入果病について
25	5. 28 5. 31 7. 19 9. 2	チャノコカクモンハマキ ヒメトビウンカ (イネ縞葉枯病) 斑点米カメムシ類(アカヒゲホミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホリハリカメムシ、クモハリカメムシ他) ヒメトビウンカ (イネ縞葉枯病、イネ黒すじ萎縮病) ツバキ、サザンカ、サカキのチャトゲコナジラミ		
26	4. 1 5. 23 6. 10 6. 30 3. 30	イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ) イネ縞葉枯病 ナシのカメムシ類 (チャバネカメムシ他) 斑点米カメムシ類 イネ縞葉枯病		
27	7. 9 3. 28	イネいもち病 イネ縞葉枯病	10. 8	ヒサカキワタフキコナジラミによるチャへの被害について
28	7. 27	イネいもち病	6. 28	秋冬ネギ及び春ニンジンに発生したクロバネキノコバエ科の一種 (<i>Bradysia</i> sp.) について
29	7. 3	斑点米カメムシ類 (特に、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ)	7. 25 7. 31	ナス黒点根腐病の発生について クビアカツヤカミキリの発生について
30	8. 8 8. 8	野菜類、花き類のオオタバコガ ネギのシロイチモジヨトウ	5. 30 5. 30 6. 7	トビイロシワアリについて オリーブアナアキゾウムシについて トマト黄化病について

年	月 日	注 意 報	月 日	特 殊 報
平成 31 令和 元	4. 23 5. 10 6. 3 7. 8	イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ） 茶、チャハマキ ナシ、果樹カメムシ類 茶、チャハマキ	10. 15	ネギハモグリバエの別系統の発生について
2	7. 28 9. 11	イネいもち病（葉いもち、穂いもち） ネギのシロイチモジヨトウ	7. 27 8. 24 10. 13	ミナミアオカメムシの発生について ツマジロクサヨトウの発生について <i>Singapore shinshana</i> (Matsumura) (和名なし) (ヨコバイ科の一種) の発生について
3	7. 7 8. 31	イネいもち病（葉いもち） ネギ、シロイチモジヨトウ	8. 3 10. 29 10. 29	サツマイモ基腐病の発生について サクセスキクイムシの発生について ヨツモンカメノコハムシの発生について
4	7. 11 7. 27 7. 27 9. 8 9. 22	ネギ、さび病 野菜類、花き類、オオタバコガ ネギ、シロイチモジヨトウ 野菜類、花き類、大豆 オオタバコガ ネギ・ブロッコリー、シロイチモジヨトウ	10. 21	タバコノミハムシの発生について
5	7. 11 7. 31 8. 15 8. 15 9. 25	野菜類・花き類、オオタバコガ イネ、斑点米カメムシ類 野菜類・花き類・ダイズ、オオタバコガ ネギ・ブロッコリー、シロイチモジヨトウ ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ		